



## 取付説明書

TOYOTA

COROLLA RUNX ZZE123

ALLEX ZZE123

COROLLA FIELDER ZZE123G

**BLITZ**

## (1)安全上のご注意

### はじめに

- ・ この製品についての説明には、製品を使用する際と、自動車に装着する際の注意事項が詳しく記載してあります。良くお読みになって、正しくお使いください。
- ・ 装着車両に、この製品システム以外の製品装着や改造を行った場合に発生する不具合に関して、弊社は責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ お客様ご本人または第三者の方が、この製品および付属品の誤った使用や、その使用中に生じた故障、その他の不具合によって受けられた障害については、弊社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- ・ この製品および付属品は、改良のため予告なく変更する事があります。
- ・ キットの構成部品はパーツリストに記載してあります。取り付け前に異品・欠品の無いことを確認してください。

### 警告

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される危険の状況を示します。

- ・ 換気の良い場所で取り付け作業を行ってください。  
換気の悪い場所で作業を行うと、爆発・火災の原因となります。
- ・ バッテリーのマイナス端子をはずしてから、取り付け作業を行ってください。  
配線のショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ コネクタを外す場合、ハーネスを引っ張らず、必ずコネクタを持って取り外してください。  
ショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品に異音・異臭などの異常が生じた場合には、製品の使用をすみやかに中止し、販売店または弊社までお問い合わせください。  
そのまま使用すると、感電や火災、電装部品の破損の原因となります。
- ・ この製品の取り付け時に、エンジンルーム内の電気配線や配管類を傷つけないよう注意してください。  
ショートなどによる火災、電装部品・エンジン・車両の破損の原因となります。
- ・ 部品交換は自動車が不安定な状態で作業すると危険です。必ず自動車作業専用リフトを使用して、安全に作業してください。  
【二柱式リフトをお勧めします】  
やむをえずガレージジャッキを使用する場合は、必ずリジトラック(馬、安全スタンド)を併用して安全に作業してください。車載ジャッキでの作業は危険なので絶対に行わないでください。

## 注意

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が軽傷また中程度の傷害を負う可能性が想定される危険な状況および物質損害の発生のみが想定される状況を示します。

- ・ この製品の取り付けは、必ず専門業者に依頼してください。  
取り付けには専門の知識と技術が必要です。
- ・ この製品を装着前に落下させたり、装着時に無理な力を加えないでください。  
作動不良や空気漏れの原因になる場合があります。
- ・ この製品の加工・分解・改造は行わないでください。  
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品の取扱いは慎重に行ってください。落としたり強いショックを与えないでください。  
事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ エンジンルーム内の温度が下がってから、作業をはじめてください。  
エンジン本体、ラジエター、排気関係の部品は高温になり、火傷の恐れがあります。
- ・ 定期的に点検を実施し、十分に注意してご使用ください。  
この製品は耐久性を考慮して、厳選された材料を使用し、厳重な社内品質管理のもとに製造されていますが、車両の使用条件などにより、耐久性が落ちたりする事があります。
- ・ 取り付け作業のために一時的に取り外す純正部品は、破損・紛失しないように大切に保管してください。  
当社は取り付け作業による物的損害の責任を負うことはできませんので、慎重に作業を行ってください。
- ・ ボルト・ナット類は、適当な工具で確実に締め付けてください。  
必要以上に締め付けを行うと、ボルトのネジ部が破損します。

## 重要事項

- ・ この製品はノーマル車輛を基準に製作されています。  
ノーマル車輛以外に取り付けた場合は、製品の機能・性能及び安全性・耐久性について保証いたしかねます。
- ・ 製品装着時は、異物が混入しないよう、十分に注意をしてください。  
異物等が混入すると最悪の場合エンジン破損の原因になる場合があります。
- ・ 純正部品の取り付け、取り外しの作業はメーカー発行の整備要領書をよく読んでからおこなってください。  
整備要領書がお手元がない場合はメーカーにてご購入ください。
- ・ 走行前には、オイル・冷却水・排気ガス等の漏れがないか点検を行ってください。  
漏れのある状態での走行は、車輛火災やエンジン破損等の恐れがあり危険です。
- ・ このキットは**ハイオクガソリン指定**となります。  
レギュラーガソリンを使用しますとノッキング等を発生させ、最悪の場合エンジン破損の原因になる場合がありますので、必ずハイオクガソリンを使用してください。  
燃料タンクのカソリン入れ換え作業は危険を伴いますので、特に火気に注意してください。
- ・ 本キットを取り付ける際は必ず**点火プラグを熱価の高いものに交換**してください。
- ・ 本キットを取り付けた場合、純正フォグランプを取り付けることはできません。
- ・ キット取り付けの際にフュ - エルサクシオンチューブ ASSY W / ポンプ(樹脂部分)を削り加工する作業がありますが、加工作業後はフュ - エルサクシオンチューブ ASSY W / ポンプを十分に洗浄し加工粉などを完全に取り除いてください。加工粉などがフュ - エルサクシオンチューブ ASSY W / ポンプ内に残っていると、エンジン始動不良、エンジン不調等の原因になる場合があります。

## 注意

フロントリップスポイラー未装着車に本キットを取り付けた場合、インタークーラーおよびインテークパイプが、フロントバンパー下端より下に出ます。フロントリップスポイラー未装着車には、

「BLITZ AERO SPEED for COROLLA ZZE12# フロントハーフスポイラー コード No.60070」をお勧めします。

**【作業者の方へお願い】**

作業が終了しましたら、本取扱説明書は必ずお客様に返却してください。

作業にとりかかる前に必ず下記の点を点検してください。

純正のホースやバンド等の部品に変形、割れ、ひび等の劣化が生じていたら純正品の新品に交換してください。

**{2} 適合車種**

製品名称: BLITZ COMPRESSOR SYSTEM

製品番号: 10132

車 名: TOYOTA COROLLA RUNX

型 式: ZZE123 6M/T車

年 式: 2001年1月~

E/G型式: 2ZZ - GE

車 名: TOYOTA ALLEX

型 式: ZZE123 6M/T車

年 式: 2001年1月~

E/G型式: 2ZZ - GE

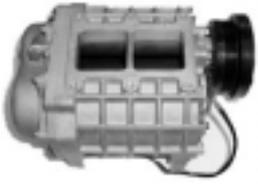
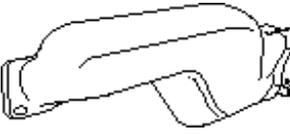
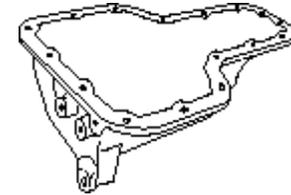
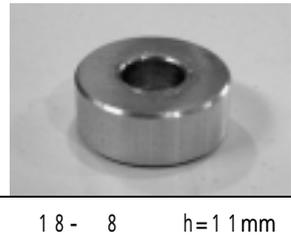
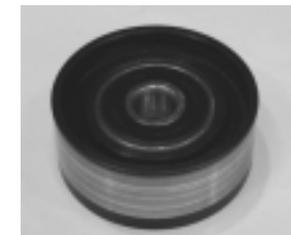
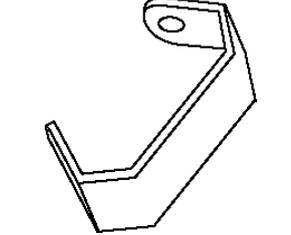
車 名: TOYOTA COROLLA FIELDER

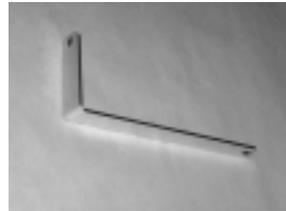
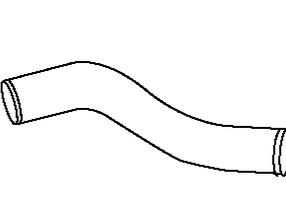
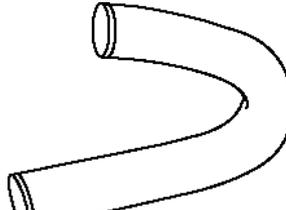
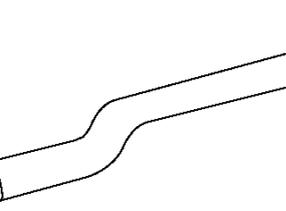
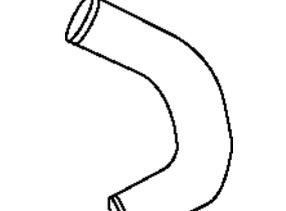
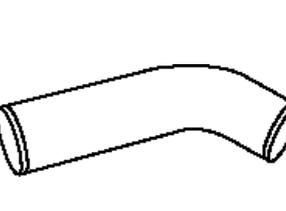
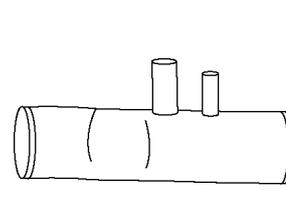
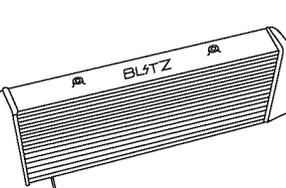
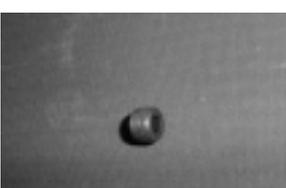
型 式: ZZE123G 6M/T車

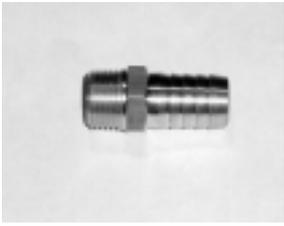
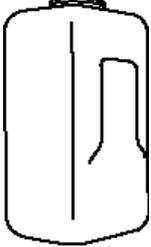
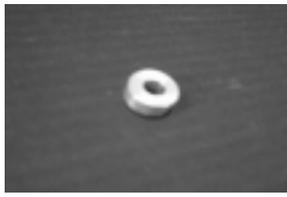
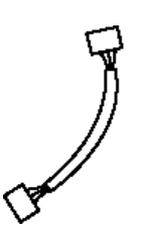
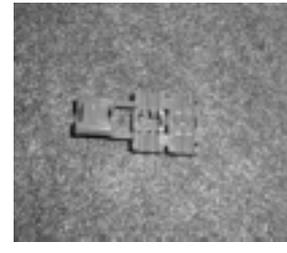
年 式: 2000年8月~

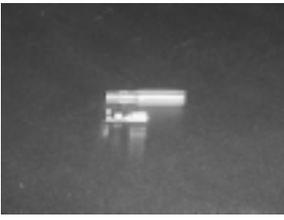
E/G型式: 2ZZ - GE

### (3) パーツリスト

<p>1 コンプレッサ-本体 1ヶ</p> 	<p>2 インテークマニホールド 1ヶ</p> 	<p>3 チャンバー 2ヶ</p> 	<p>4 オイルパン 1ヶ</p> 
<p>5 ガasket 2ヶ</p> 	<p>6 アイドラプリー-ブラケット 1ヶ</p> 	<p>7 コンプレッサ-ブラケット 1ヶ</p> 	<p>8 オルタネーター-ブラケット 1ヶ</p> 
<p>9 アイドラプリー-カラー 2ヶ</p> 	<p>10 クーラー-カラー-A 2ヶ</p> 	<p>11 クーラー-カラー-B 3ヶ</p>  <p>18- 8 h=11mm</p>	<p>12 アイドラプリー 2ヶ</p> 
<p>13 コンプレッサ-ステー 1ヶ</p> 	<p>14 スロットルボディ-ステー 1ヶ</p> 	<p>15 バッテリー-トレイ 1ヶ</p> 	<p>16 バッテリー-トレイ-ステー 1ヶ</p> 
<p>17 バッテリー-ステー 1ヶ</p> 	<p>18 エアコンパイプ-ステー 1ヶ</p> 	<p>19 リザーバ-タンク-ブラケット 1ヶ</p> 	<p>20 レベルゲージ-ガイド-ステー 1ヶ</p> 

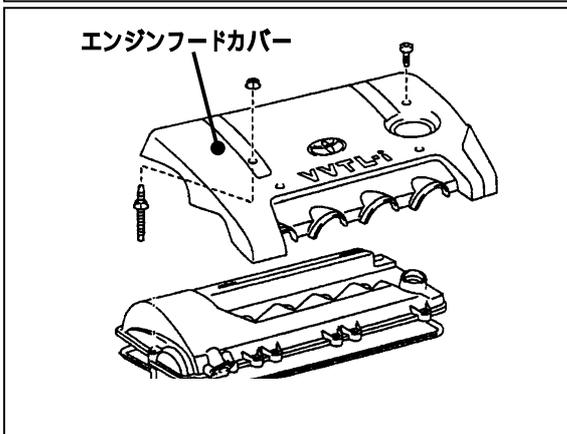
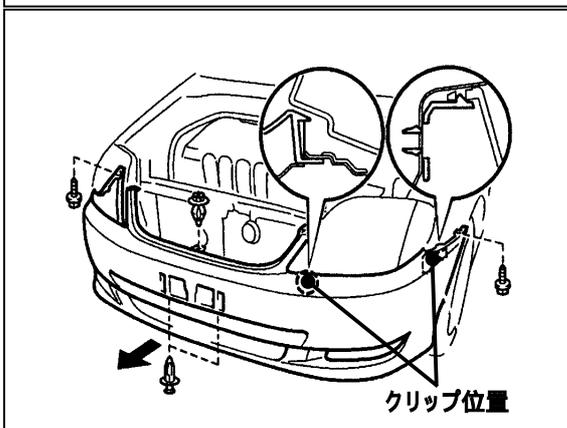
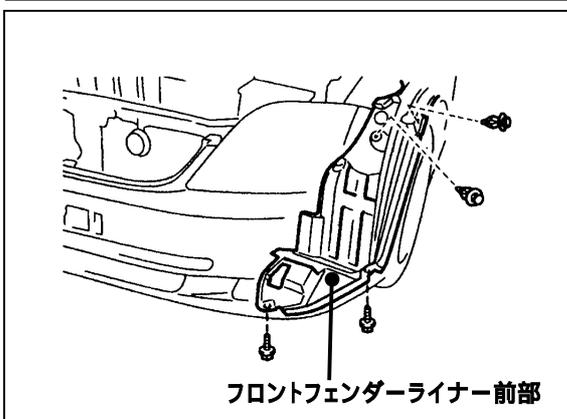
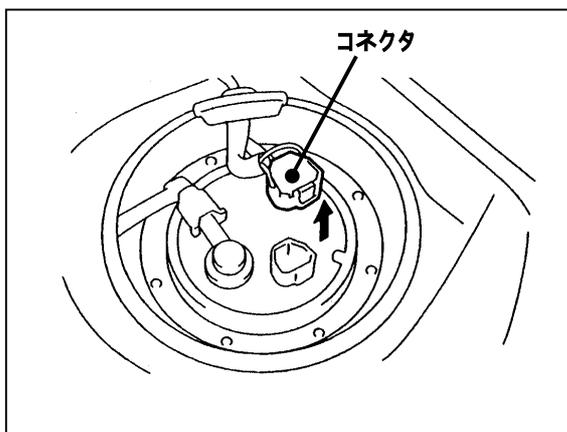
21 インタークーラーステ- A 1ヶ	22 インタークーラーステ-RH 1ヶ	23 インタークーラーステ-LH 1ヶ	24 エアクリナーステ- 1ヶ
			
25 フローパイプ No.1 1ヶ	26 フローパイプ No.2 1ヶ	27 インターパイプ No.1 1ヶ	28 インターパイプ No.2 1ヶ
			
29 インターパイプ No.3 1ヶ	30 インターパイプ No.4 1ヶ	31 インターパイプ No.5 1ヶ	32 サクションパイプ 1ヶ
			
33 シリコンホース 60 2ヶ	34 シリコンホース 70 5ヶ	35 異型シリコン 60- 70 2ヶ	36 ホースバンド L 12ヶ
			
37 ホースバンド S 6ヶ	38 インタークーラー本体 1ヶ	39 ニップル 4-1/8PT 1ヶ	40 沈みプラグ 2ヶ
			

<p>41 ニップル 21-3/4PT 1ヶ</p> 	<p>42 リザーバタンク 1ヶ</p> 	<p>43 レインホースカラ- 4ヶ</p>  <p>18- 8 h=8mm</p>	<p>44 19 ホ-ス 450mm 1ヶ</p> 
<p>45 エア7口延長ハ-ネス 5ヶ</p> 	<p>46 6 チューブ 2000mm 1ヶ</p> 	<p>47 4 ホ-ス 2000mm 1ヶ</p> 	<p>48 19 コルゲ-トチューブ 1ヶ</p> 
<p>49 15 コルゲ-トチューブ 1ヶ</p> 	<p>50 ゴムキャップ 19 1ヶ</p> 	<p>51 クランプ L 3ヶ</p> 	<p>52 クランプ S 2ヶ</p> 
<p>53Vベルト 1ヶ</p> 	<p>54 オルタネ-ターハ-ネス A 1ヶ</p> 	<p>55 オルタネ-ターハ-ネス B 1ヶ</p> 	<p>56 ク-ラ-ハ-ネス 1ヶ</p> 
<p>57</p> 	<p>58 クラッチ用スイッチ 1ヶ</p> 	<p>59 リレ-ハ-ネス 1ヶ</p> 	<p>60 エレクトロタップ 2ヶ</p> 

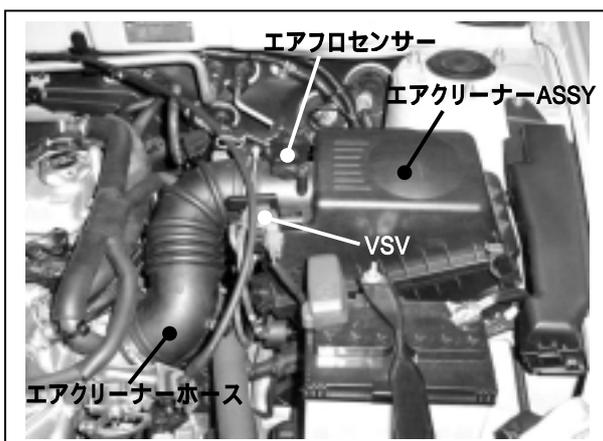
<b>61</b> メスキ'ホ'シ・スリーブ'セット 6ヶ 	<b>62</b> オスキ'ホ'シ・スリーブ'セット 5ヶ 	<b>63</b> SUS パ'ワ- LM 1ヶ 	<b>65</b> タイラ'ップ 15ヶ 
<b>66</b> レキ'ュレター 1ヶ 	<b>67</b> コンプレッサー-プレート 1ヶ 	<b>68</b> 無鉛プ'レミアムステッカー 2ヶ 	<b>69</b> 取り扱'い説明書 1ヶ 

<b>a</b> フランジ'ホル' M6 × 8 1ヶ	<b>b</b> フランジ'ホル' M6 × 16 13ヶ	<b>c</b> フランジ'ホル' M6 × 20 28ヶ	<b>d</b> フランジ'ホル' M8 × 12 3ヶ
<b>e</b> フランジ'ホル' M8 × 16 1ヶ	<b>f</b> フランジ'ホル' M8 × 50 1ヶ	<b>g</b> フランジ'ホル' M10 × 35 4ヶ	<b>h</b> 六角'ホル' M8 × 120 3ヶ
<b>i</b> 六角'ホル' M10 × 55 1ヶ	<b>j</b> キャ'ップ'ホル' M8 × 15 3ヶ	<b>k</b> スタ'ッド'ホル' M8 2ヶ	<b>l</b> フランジ'ナ'ット M6 6ヶ
<b>m</b> フランジ'ナ'ット M8 3ヶ	<b>n</b> フランジ'ナ'ット M10 1ヶ	<b>o</b> ワ'ッシャー- M8 3ヶ	<b>p</b> ワ'ッシャー- M10 3ヶ

#### (4) 純正部品取り外し作業



- (1) 燃料流出防止作業  
リアシートを取り外す。  
リアフロアサービスホールカバーを取り外し、フューエルポンプ用のコネクタを外す。  
エンジンを始動し、自然に停止した後、イグニッションスイッチをOFFにする。  
バッテリーのマイナスターミナルを取り外す。  
フューエルポンプ用のコネクタを、元通り接続する。  
バッテリーマイナス端子は、外したままにしておきます。  
カバー、リアシートは外したままにしておきます。
- (2) フロントバンパー取り外し  
スクリューを外し、フロントグリルを取り外す。  
クリップ・スクリューを外し、左右のフロントフェンダーライナーの前部(一部)およびエンジンアンダーカバーを取り外す。  
フロントバンパーが外れる範囲で、スクリューおよびクリップを外し、フロントフェンダーライナーの一部を取り外してください。  
スクリューおよびクリップを外し、フロントバンパーを取り外す。
- (3) ドレンボルトを取り外し、エンジンオイルを抜く。
- (4) コックを緩めて、冷却水を抜き取る。
- (5) エンジンフードカバーを取り外す。



(6) 純正エアクリーナー取り外し

63. SUSパワーLMキット内付属の取扱説明書を参考にして下さい。

エアフロセンサー、VSVのコネクターを外す。

VSVの4ホースをインマニ側で抜き取る。

エアクリーナーケースに固定してあるPCVバルブを、エアクリーナーケースから取り外す。

エアクリーナーASSYおよびエアクリーナーホースを車輻より取り外す。

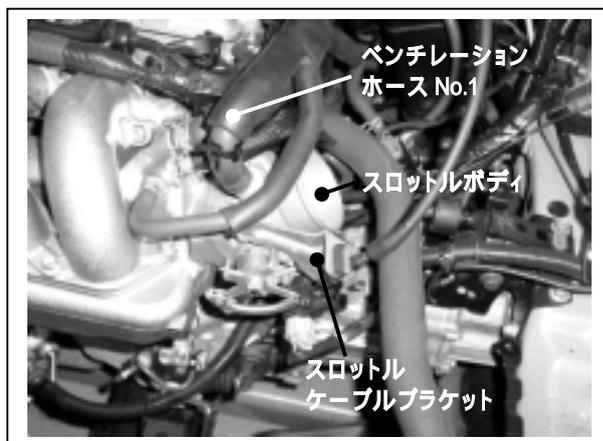
純正クリーナーケースより、エアフロセンサーを取り外す。

センサーのOリングを破損しないように注意して下さい。

エンジン不調の原因となりますので、エアフロセンサーの取り扱いには、十分注意して下さい。

VSVコネクターを、LMキット付属のタイラップで固定する。

固定場所は、63. SUSパワーLM取扱説明書を参照して下さい。



(7) スロットルボディ取り外し

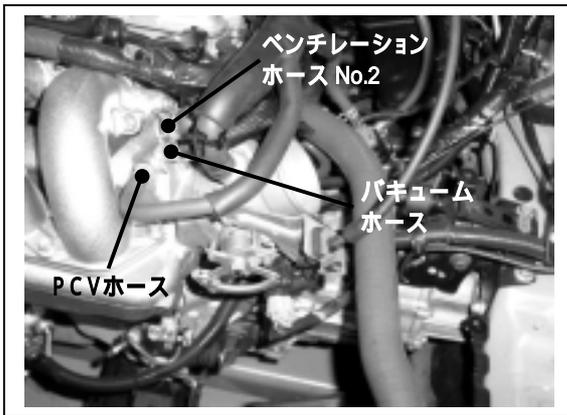
スロットルポジションセンサーおよびアイドルスピードコントロールバルブのコネクターを外す。

ベンチレーションホース No.1をスロットルボディから取り外す。

スロットルケーブルおよびスロットルケーブルブラケットを取り外す。

ウォーターバイパスホース2本を取り外す。

スロットルボディASSYおよびガスケットを取り外す。



- (8) インテークマニホールド取り外し  
ベンチレーションホース No.2、パキュームホース、PCVホースを、インテークマニホールドから取り外す。

フューエルデリバリーパイプ取り外し

- (ア) インジェクターのコネクターを外す。  
(イ) カムポジションセンサーのコネクターを外す。  
(ウ) ボルト3ヶを外し、インジェクター付きでフューエルデリバリーパイプを取り外し、フリーにする。

燃料漏れの原因となりますので、必ずインジェクターがフューエルデリバリーパイプから抜けないように、取り外して下さい。

オイルレベルゲージを抜き、インテークマニホールドとオイルレベルゲージガイドを取り付けているボルト(1ヶ)を外す。

オイルレベルゲージのOリングの破損に注意して下さい。

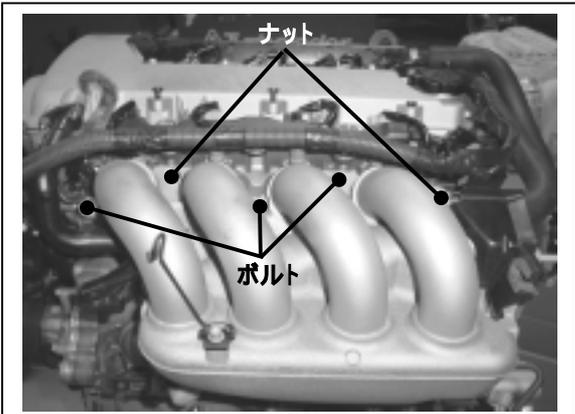
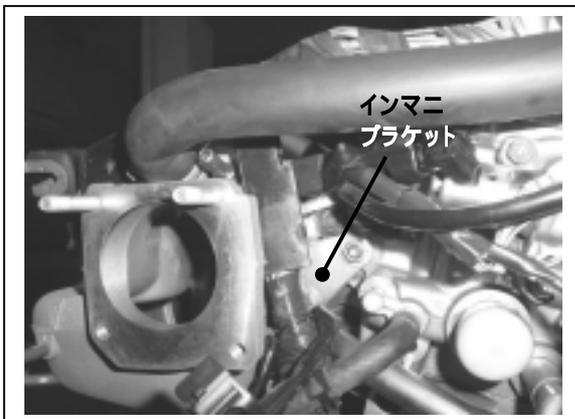
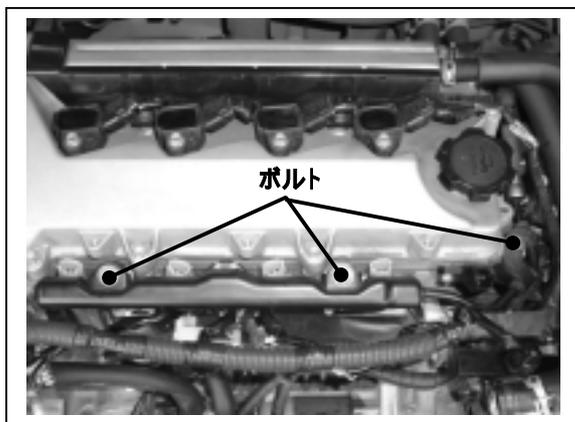
インテークマニホールドと純正インマニブラケットを取り付けているボルト(2ヶ)を外す。

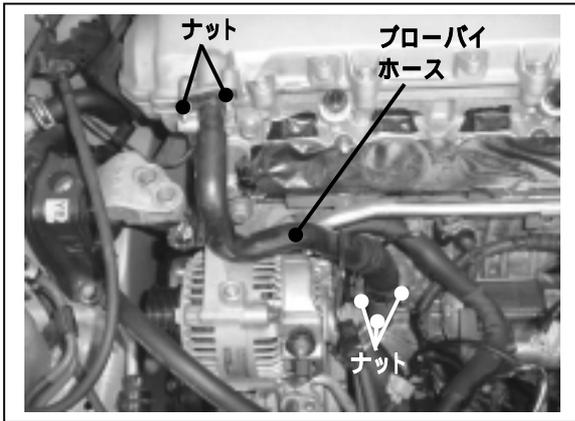
図は、実際とは、若干異なります。

オルタネーターブラケットを取り外す。  
インテークマニホールド下部を取り付けているボルト(1ヶ)を取り外す。  
ボルト(3ヶ)、ナット(2ヶ)を外し、インテークマニホールドを取り外す。

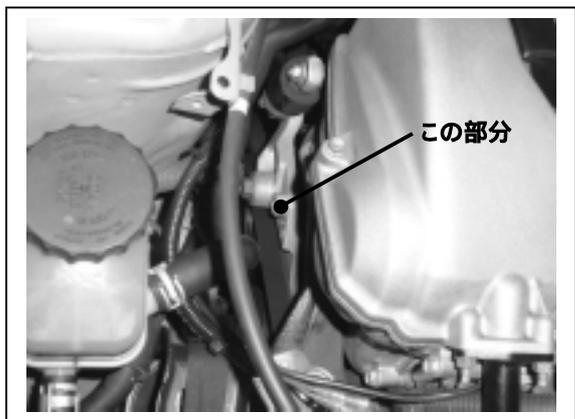
- (9) オイルレベルゲージガイドからコネクター2個を取り外し、オイルレベルゲージガイドを取り外す。

オイルレベルゲージガイドのOリングの破損に、注意して下さい。

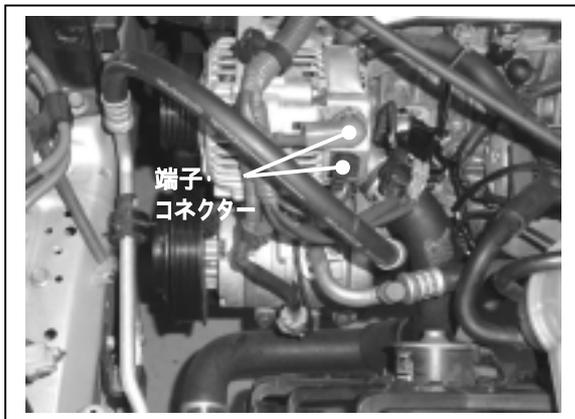




(10) ナットを外し、ブローバイホースをフランジごと取り外す。

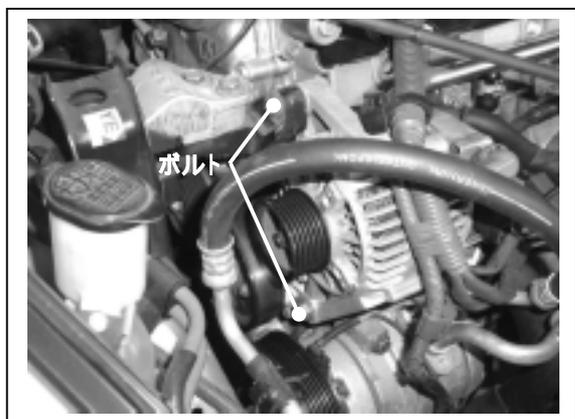


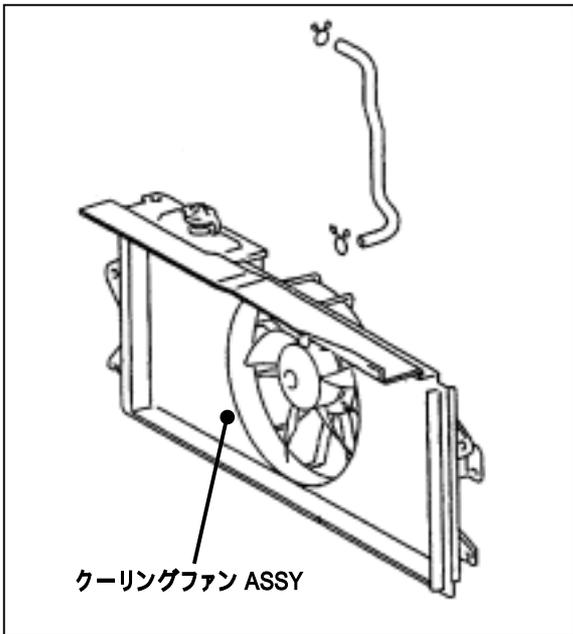
(11) 図の指示部分を、時計回りにトルクをかけてVベルトのテンションを緩めて、Vベルトを取り外す。



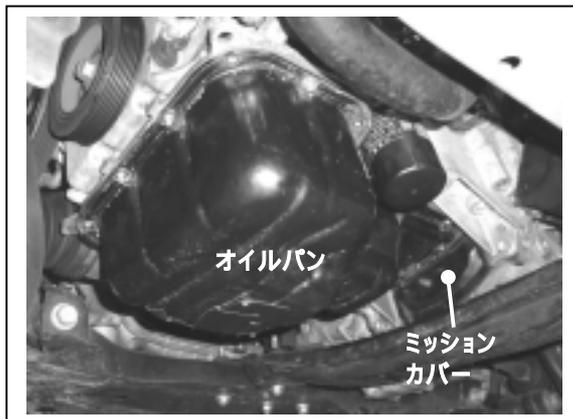
(12) オルタネーター取り外し  
オルタネーターのコネクター1ヶと + B端子を取り外す。  
ボルト2ヶを外して、オルタネーターを取り外す。

バッテリーのマイナス端子を外してあるか確認してから、オルタネーターを取り外して下さい。



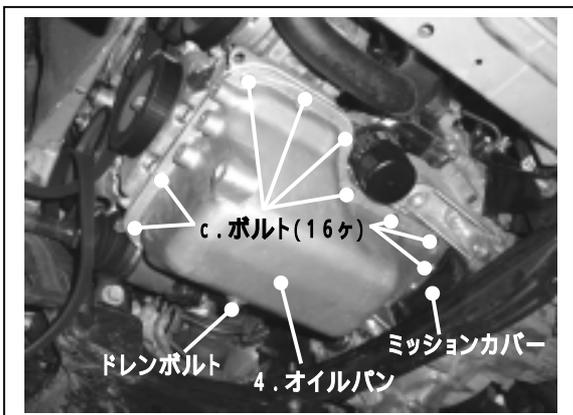


- (13) ファンモーター用コネクター、ワイヤーハーネスクランプ、ボルト(2ヶ)を外し、クーリングファン ASSY を車輛から取り外す。



- (14) オイルパン取り外し  
 ミッションカバーを取り外す。  
 オイルパンのナット(4ヶ)・ボルト (12ヶ)を取り外す。  
 オイルパンを、エンジンから取り外す。  
 スタッドボルト(4ヶ)を取り外す。  
 エンジン側取り付け面に残った液状ガスケットを、きれいに取り除く。

## (5)コンプレッサーキット取り付け作業



### (1) 4. オイルパン取り付け

4. オイルパンと車輛側の両取り付け面を脱脂する。

オイルパンの取り付け面に、液状ガスケットを塗布する。

液状ガスケットは、オイルパンのボルト穴より内側に、塗布して下さい。

液状ガスケットは、トヨタ指定の物を、ご使用下さい。

c. フランジボルトM6×20(16ヶ)を使用して、4. オイルパンを取り付ける。

締め付けトルク

$$= 10\text{N}\cdot\text{m}(100\text{kgf}\cdot\text{cm})$$

ミッションカバーを取り付ける。

4. オイルパンと接触して取り付けられない場合は、削り加工して、取り付けして下さい。

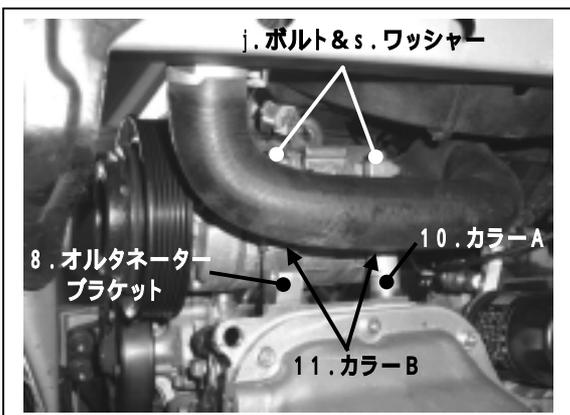
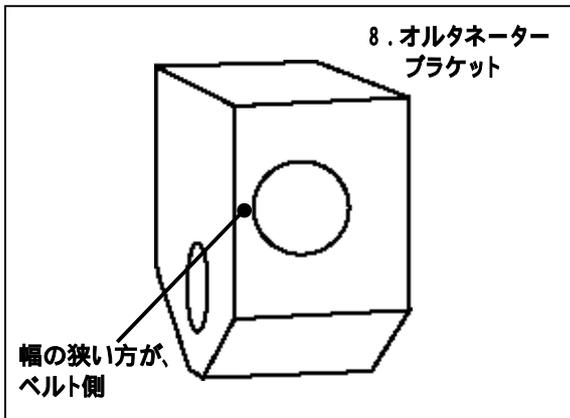
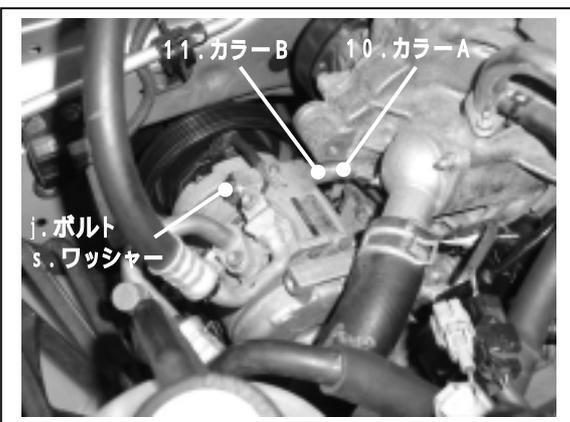
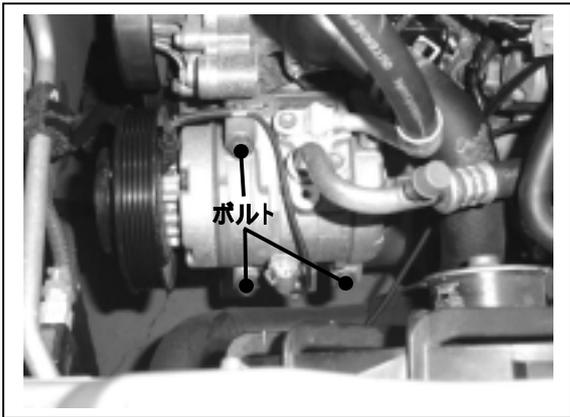
純正ドレンボルトを、4. オイルパンに取り付ける。

新品のガスケットを使用して下さい。

4. オイルパンは、アルミ製です。ネジ部破損の原因となりますので、締め付けすぎには十分注意して下さい。

エンジンオイルは、液状ガスケットが完全に固着してから注入してください。

オイル漏れの原因になります。



(2)クーラーコンプレッサー移動

クーラーコンプレッサーのコネクターを外す。

56.クーラーハーネスを接続して、クーラーコンプレッサーのハーネスを延長する。

ボルト(3ヶ)を外して、クーラーコンプレッサーを取り外す。

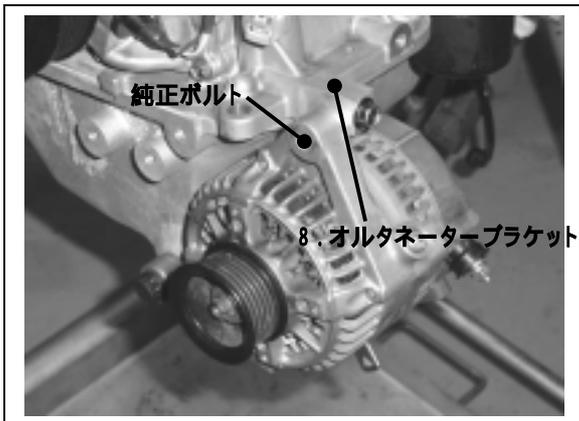
8.オルタネーターブラケット、10.クーラーカラー-A(2ヶ)、11.クーラーカラー-B(3ヶ)、j.六角ボルトM8×120(3ヶ)、s.ワッシャーM8(3ヶ)を使用してクーラーコンプレッサーを仮止める。

8.オルタネーターブラケットの向きに注意して下さい。

8.オルタネーターブラケットと10.クーラーカラー-Aがエンジン側、11.クーラーカラー-Bがクーラーコンプレッサー側です。

で延長したハーネスを、クーラーコンプレッサーのコネクターに取り付ける。





(3) 純正オルタネーターのボルト(2ヶ)を利用して、オルタネーターを取り付ける。

締め付けトルク

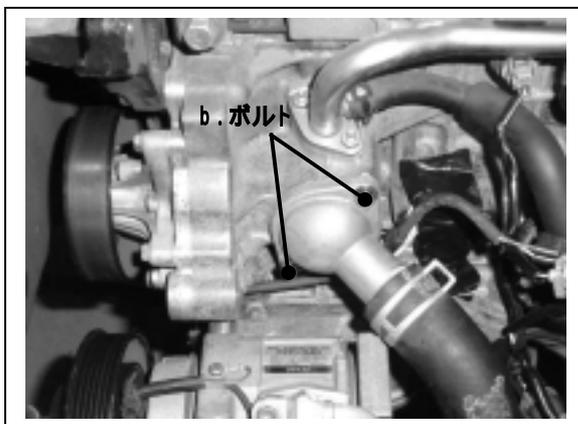
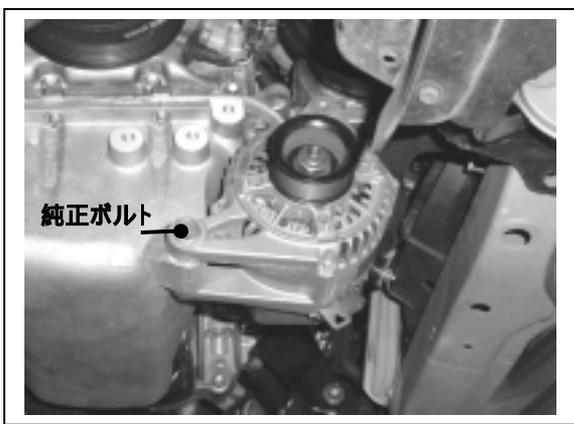
$$M8 = 29 \text{ N} \cdot \text{m} (290 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

$$M10 = 58 \text{ N} \cdot \text{m} (580 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

(4) (2)で仮止めだったクーラーコンプレッサーを本締めする。

締め付けトルク

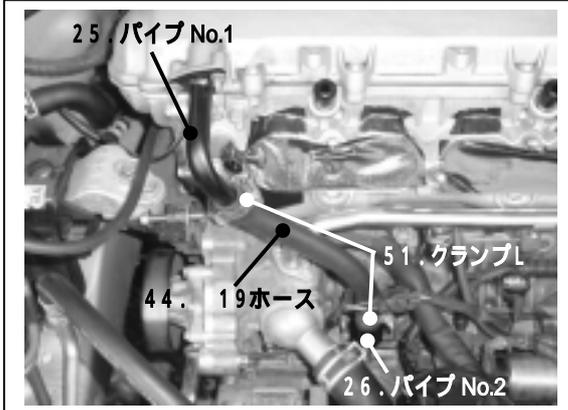
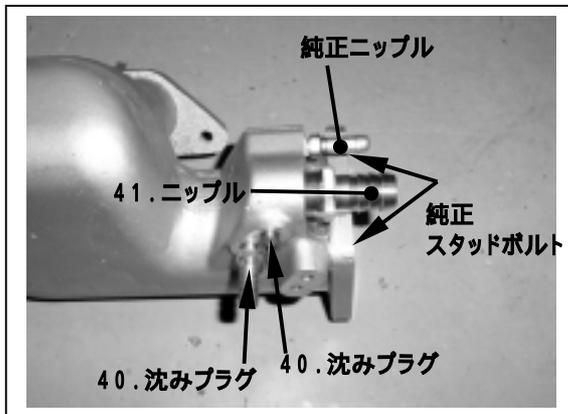
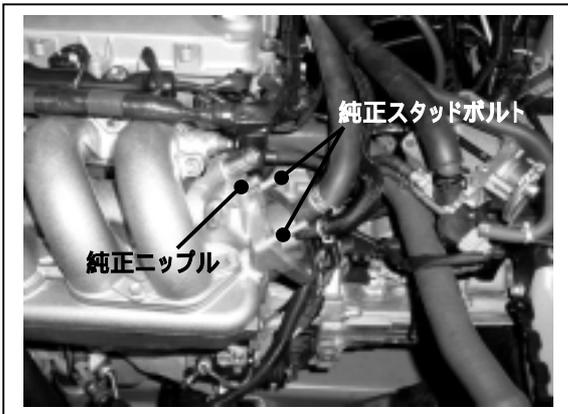
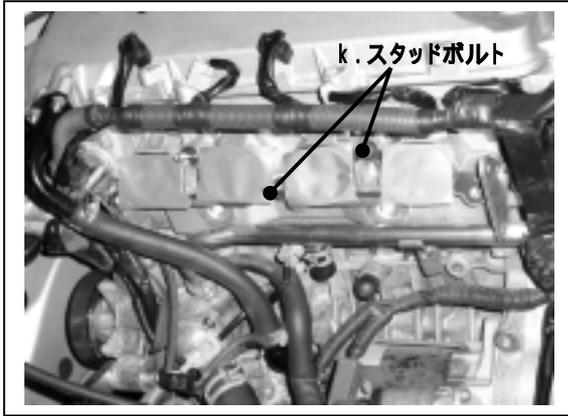
$$= 25 \text{ N} \cdot \text{m} (255 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$



(5) ウォーターインレットボルト付け替え  
 ウォーターインレットのナット(2ヶ)を外し、スタッドボルト(2ヶ)を取り外す。  
**b.** フランジボルトM6×16(2ヶ)を取り付ける。

締め付けトルク

$$= 10 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$



(6) 2. インテークマニホールド取り付け

純正スタッドボルト(2ヶ)の内、右端の長い方のスタッドボルト(1ヶ)を取り外す。

k. スタッドボルトM8(2ヶ)を取り付ける。  
純正インテークマニホールドの純正ニップル(1ヶ)と純正スロットルボディスタッドボルト(2ヶ)を取り外す。

2. インテークマニホールドに、純正ニップルとスロットルボディスタッドボルト、40. 沈みプラグ(2ヶ)、41. ニップル 21 - 3 / 4 PTを取り付ける。

ニップル・沈みプラグはシールテープ・シール剤を使用して取付けて下さい。

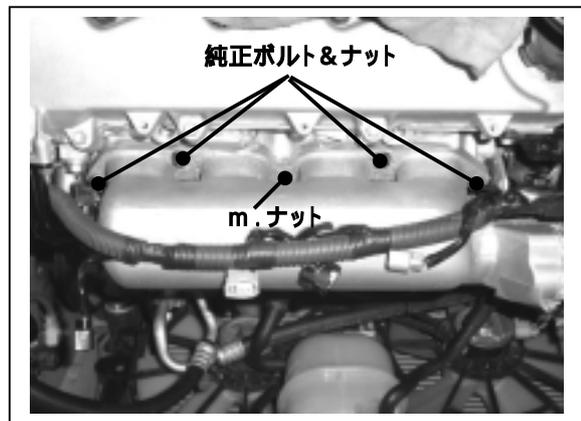
純正スロットルボディスタッドボルト(2ヶ)は、同じ位置に取り付けます。

ブースト計を取り付ける場合は39. ニップル 4 - 1 / 8 PTを使用すると取り付けできます。

純正インマニボルト(2ヶ)、純正インマニナット(2ヶ)、m. フランジナットM8(1ヶ)を使用して、2. インテークマニホールドを取り付ける。

締め付けトルク

$$= 34 \text{ N} \cdot \text{m} (350 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$



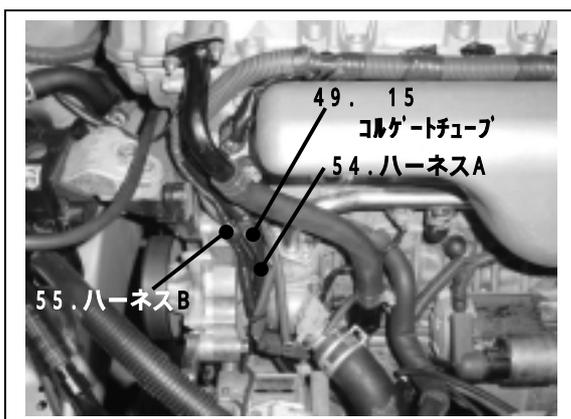
(7) ブローバイホース取り付け

純正ガスケットと純正ナットを使用して、25. ブローバイパイプNo. 1と26. ブローバイパイプNo. 2を取り付ける。

締め付けトルク

$$= 10 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

51. クランプL(2ヶ)を使用して、25. ブローバイパイプNo. 1と26. ブローバイパイプNo. 2に、300mm程度にカットした44. 19ホースを取り付ける。



(8) オルタネーターハーネス取り付け

54. オルタネーターハーネスA

(ア) a. フランジボルトM6×8(1ヶ)、1. フランジナットM6(1ヶ)、

54. オルタネーターハーネスAを使用して、オルタネーター+B端子用ハーネスを延長する。

(イ) 49. 15 コルゲートチューブを50mm程度使用して、(ア)の接続部分を被覆する。

ビニールテープ等を使用して、コルゲートチューブを巻いて固定して下さい。

**注意:** +B端子部品がエンジン本体と接触した場合、オルタネーターが破損する恐れがありますので、確実に被覆して下さい。

(ウ) オルタネーター+B端子に、純正ナットを使用して取り付ける。

締め付けトルク

$$= 9.8 \text{ N} \cdot \text{m} (100 \text{ kgf} \cdot \text{cm})$$

(エ) +B端子のプラスチックカバーを、元通り取り付ける。

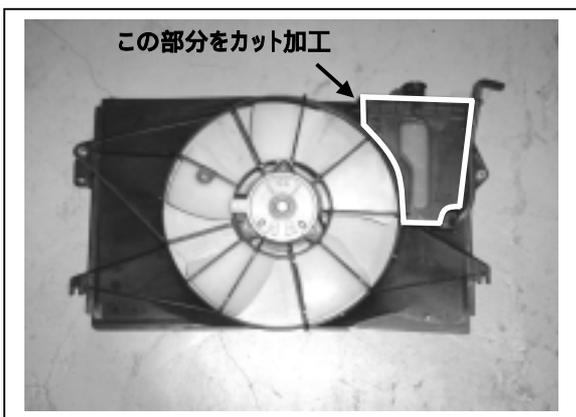
55. オルタネーターハーネスB

(ア) 55. オルタネーターハーネスBを使用して、オルタネーター用コネクターを延長する。

(イ) それを、オルタネーターのコネクターに取り付ける。

65. タイラップを使用して、ハーネス類を図のようにまとめて下さい。

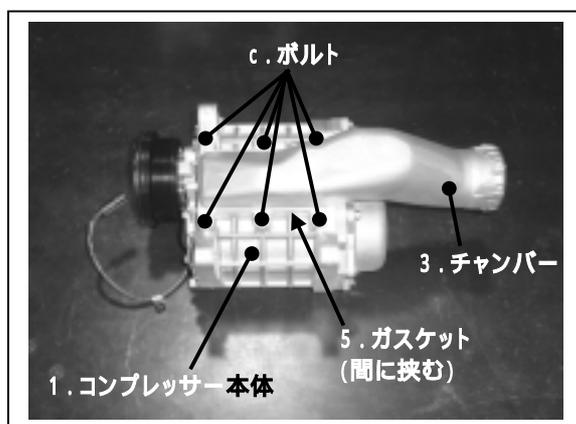
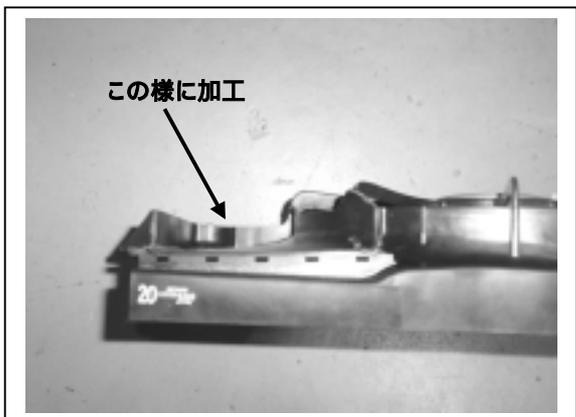
可動部・高熱部に触れない安全な位置に、固定して下さい。



- (9) 純正クーリングファン取り付け  
純正クーリングファンの、リザーバータンク部分を、図のようにカット加工する。

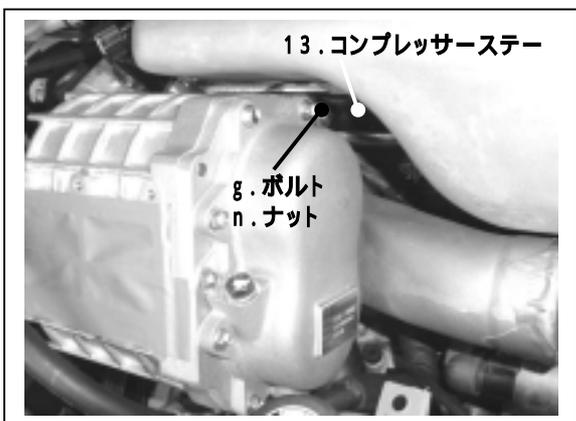
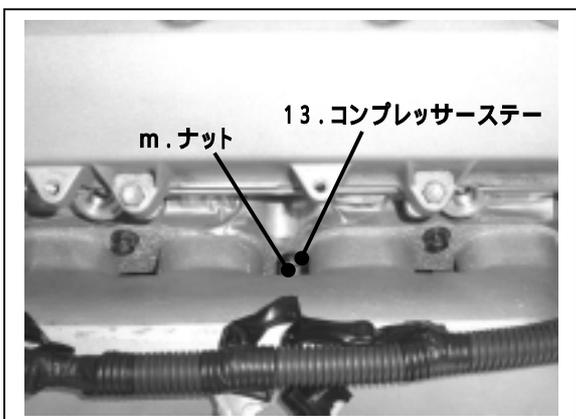
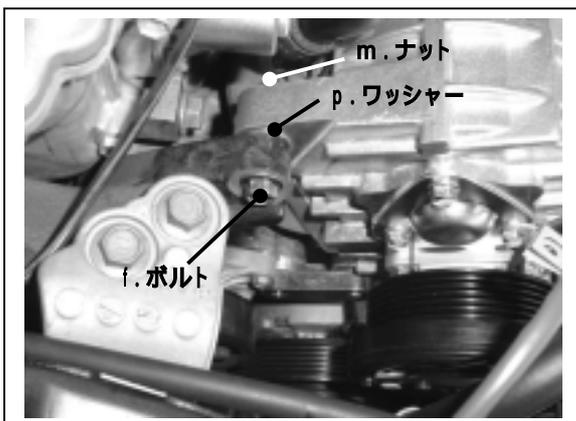
加工する時は、保護メガネ・マスク・軍手等を着用して、安全に作業して下さい。

加工した純正クーリングファン ASSY を、元通り取り付け。



- (10) c. フランジボルトM6 × 20 (6ヶ)と5. ガasket (1ヶ)を使用して、1. コンプレッサー本体のアウトレット側に、3. チャンバー (1ヶ)を取り付ける。

締め付けトルク  
= 10 N・m (100 kgf・cm)



(11) 1. コンプレッサー本体取り付け  
 7. コンプレッサーブラケット、f. フランジボルトM8×50(1ヶ)、g. フランジボルトM10×35(1ヶ)、i. 六角ボルトM10×55(1ヶ)、m. フランジナットM8(1ヶ)、p. ワッシャーM10(3ヶ)を使用して、  
 1. コンプレッサー本体をエンジンに仮付けする。

2. インテークマニホールドを取り付けている、m. フランジナットM8(1ヶ)を一度取り外し、13. コンプレッサーステアを取り付け、共締めする。

13. コンプレッサーステアは、仮止めです。

g. フランジボルトM10×35(1ヶ)、n. フランジナットM10(1ヶ)を使用して、13. コンプレッサーステアを1. コンプレッサー本体に仮付けする。

で仮付けしていたボルト類を、本締めする。

締め付けトルク

M8 = 25N・m(250kgf・cm)

M10 = 45N・m(450kgf・cm)

・ で仮付けしていたボルト類を、本締めする。

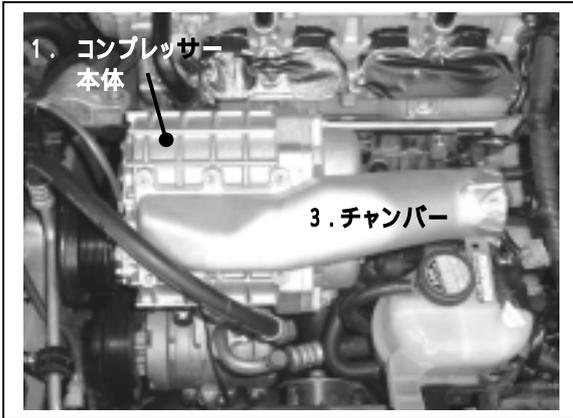
締め付けトルク

M8 = 34N・m(340kgf・cm)

M10 = 45N・m(450kgf・cm)

エアコンパイプが、コンプレッサー本体や、コンプレッサープリーに接触する場合は、エアコンパイプを曲げ加工して、逃がしてください。

パイプを曲げ加工する場合は、潰れ・折れやエアコンガス漏れ等に十分注意し、慎重に加工してください。



- (12) アウトレット側と同様に、c. フランジボルトM6×20(6ヶ)と5. ガasket(1ヶ)を使用して、1. コンプレッサー本体のインレット側に3. チャンバーを取り付ける。

締め付けトルク  
= 10N・m(100kgf・cm)

写真は、実物とは、若干異なります。

- (13) フューエルデリバリーパイプ取り付け純正ボルトを使用して、フューエルデリバリーパイプを、元通り取り付け。

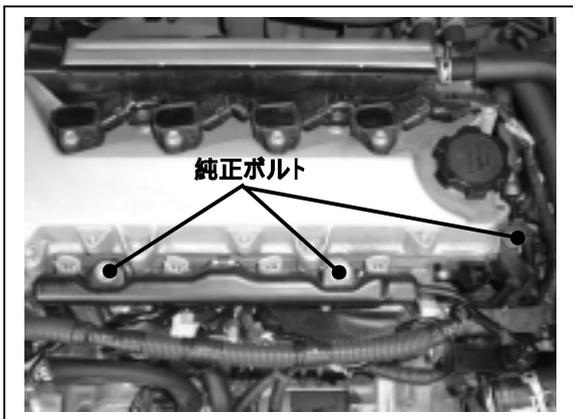
締め付けトルク

M6 = 9.0N・m(92kgf・cm)

M8 = 19N・m(194kgf・cm)

キット取り付け後のエンジン始動時に、インジェクターから燃料の漏れがないか、必ず確認して下さい。

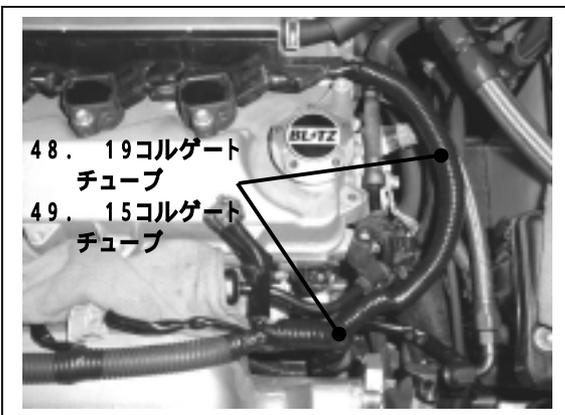
インジェクターのコネクターおよびカムポジションセンサーのコネクターを元通り取り付け。



- (14) 純正ハーネスカバーを取り外し、

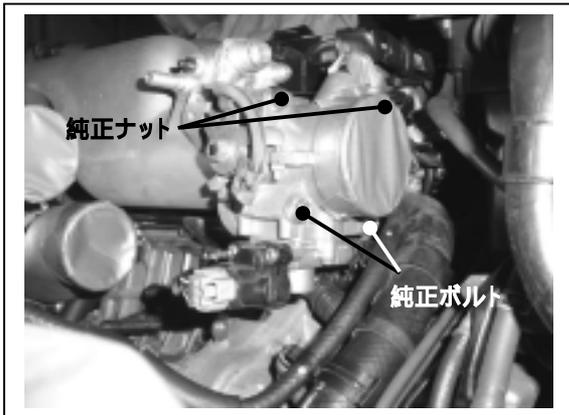
48. 19コルゲートチューブ(100mm程度)、49. 15コルゲートチューブ(350mm程度)を使用して、ハーネスをカバーする。

ビニールテープ等を使用して、コルゲートチューブを巻き、固定して下さい。



- (15) 65. タイラップを使用して、ハーネスをフューエルデリバリーパイプに固定する。



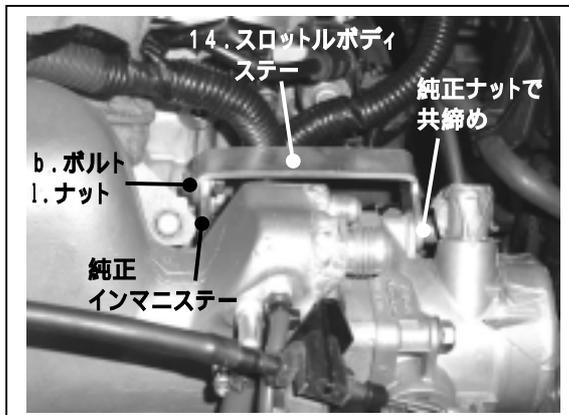


(16) スロットルボディ取り付け

純正スロットルボディナット(2ヶ)、純正スロットルボディボルト(2ヶ)、純正ガスケットを使用して、スロットルボディ、純正スロットルケーブルブラケットおよび純正スロットルケーブルを、元通り取り付け。

締め付けトルク

= 22 N・m (220 kgf・cm)



b. フランジボルト M6 × 16 (1ヶ)、1. フランジナット M6 (1ヶ) を使用して、純正インマニステーに、14. スロットルボディスターを取り付ける。

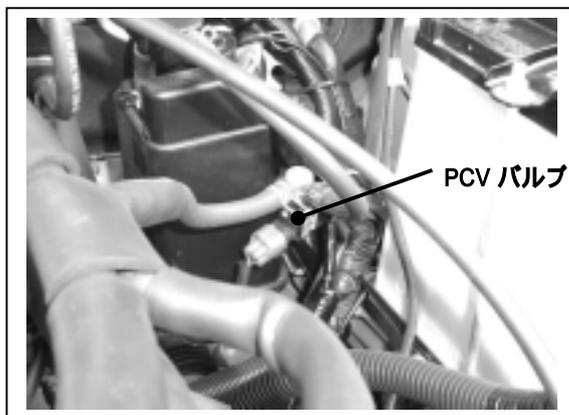
図の位置に共締めします。

締め付けトルク

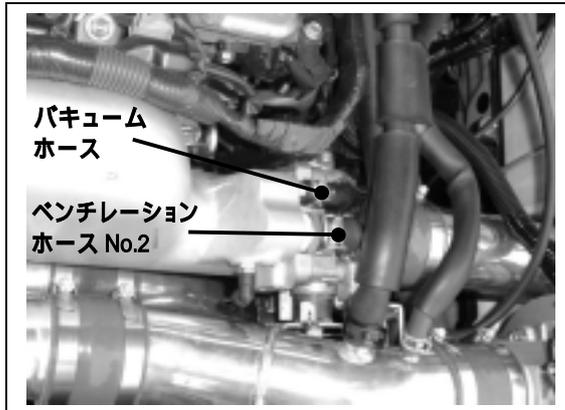
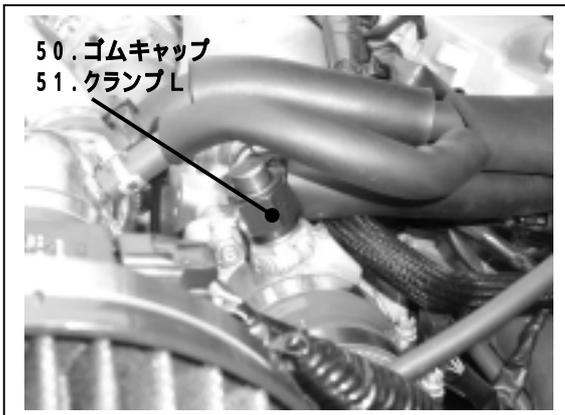
= 22 N・m (220 kgf・cm)

写真は、実物とは、若干異なります。

ウォーターバイパスホース2本、コネクター2ヶを、スロットルボディに元通り取り付け。



(17) 65. タイラップを使用して、図の位置にPCVバルブを固定する。



(18) ホース類取り付け

ホースの付け間違えに十分注意して、作業して下さい。

スロットルボディのベンチレーションホース No.1 が取り付けいていたパイプに、**50. ゴムキャップ** 19、**51. クランプL** (1ヶ) を取り付け栓をする。

ベンチレーションホース No.2 を、**2. インテークマニホールドの41. ニップル** 21 - 3 / 4 PT に、純正クランプを使用して取り付ける。

**2. インテークマニホールドの純正ニップル** に、純正クランプを使用して、バキュームホースを取り付ける。

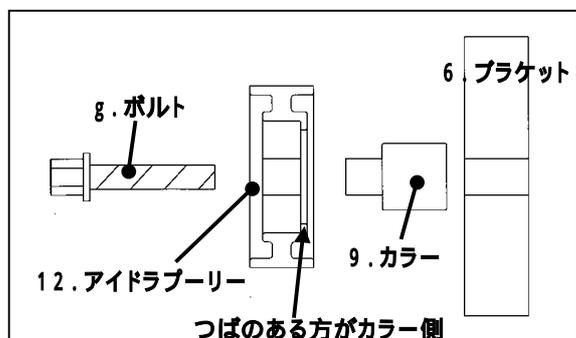
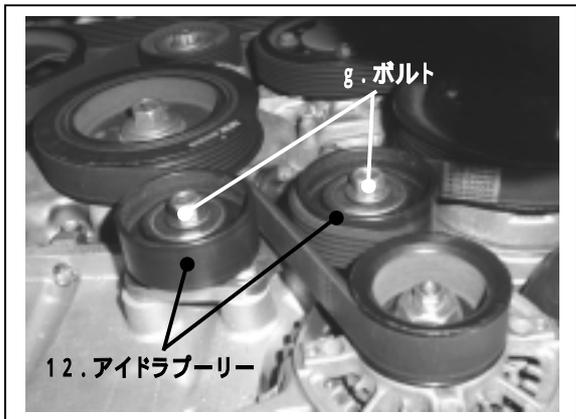
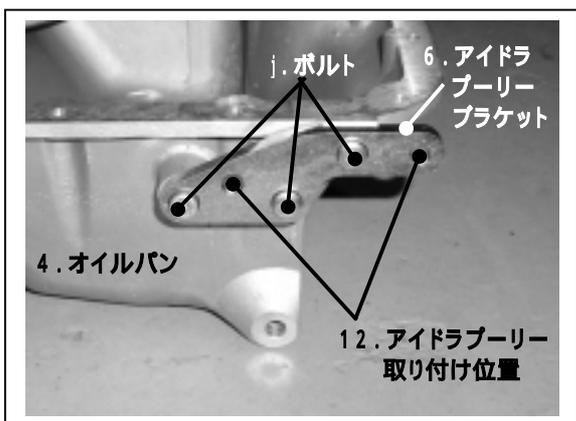
図のサクションパイプは、まだ取り付けしません。

(19) エアコンパイプステーの取り付け

純正エアコンパイプステーのボルト (1ヶ) を取り外す。

**b. フランジボルト M6 × 16 (1ヶ)**、**l. フランジナット M6 (1ヶ)**、純正エアコンパイプステーボルトを使用して、純正エアコンパイプステーと取り付けしていた場所の間に、**18. エアコンパイプステー** を取り付ける。

エアコンホースが、**1. コンプレッサー** 本体やコンプレッサープーリーに接触しないよう、**18. エアコンパイプステー** の位置を調節して下さい。



(20) 12. アイドラプーリー取り付け

j. キャップボルトM8×15(3ヶ)を使用して、6. アイドラプーリーブラケットを、4. オイルパンに取り付ける。

締め付けトルク

= 18.5 N・m (188 kgf・cm)

写真は、実物とは、若干異なります。

9. アイドラプーリーカラー(2ヶ)、

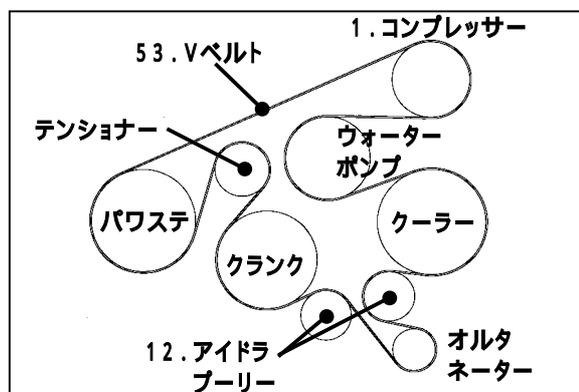
g. フランジボルトM10×35(2ヶ)を使用して、12. アイドラプーリー(2ヶ)を取り付ける。

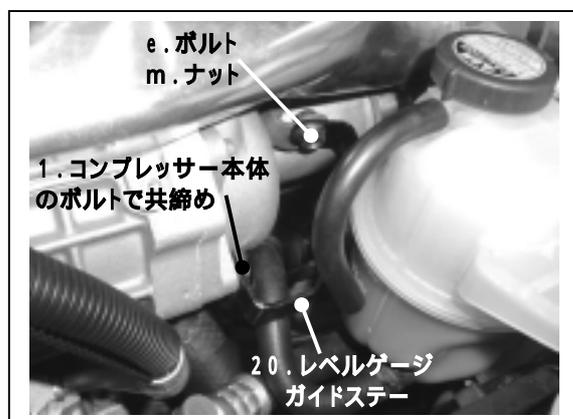
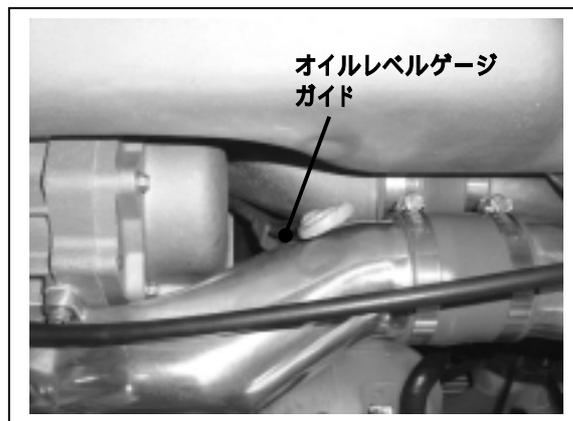
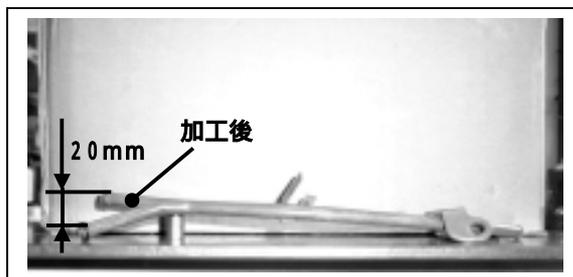
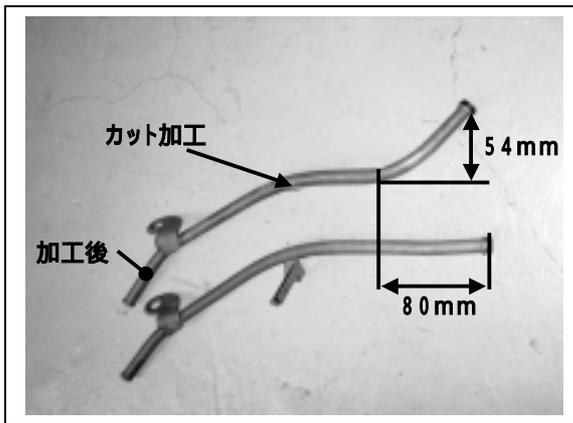
締め付けトルク

= 45 N・m (450 kgf・cm)

12. アイドラプーリーは、つばのある方を、9. カラー側にして下さい。

(21) テンショナーを緩めて、図のように53. Vベルトを取り付ける。





(22) オイルレベルゲージ取り付け

純正オイルレベルゲージガイドのコネクターが取り付けしていたステーをカットする。

パイプに損傷を与えないように注意して下さい。

加工時は、保護メガネ・マスク・軍手等を着用して、安全に作業して下さい。

カットか所は、錆止めの処置をして下さい。

純正オイルレベルゲージガイドを、図のように曲げ加工する。

図中の寸法は、目安です。車輛個体差により寸法は若干変わりますので、車輛との具合を見ながら、加工して下さい。

オイルレベルゲージを差し込むことができるか、その都度確認しながら加工して下さい。

パイプの折れ・潰れに注意しながら、慎重に加工して下さい。

20. レベルゲージガイドステー、

e. フランジボルトM8×16(1ヶ)、  
m. フランジナットM8(1ヶ)を使用して、オイルレベルゲージガイドを取り付ける。

オイルレベルゲージを取り付ける。

写真は、実物とは、若干異なります。



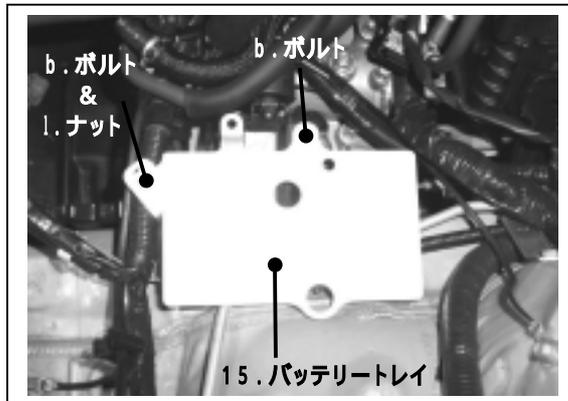
(23) バッテリー移動

バッテリーのプラス端子、ステー類を外し、バッテリーおよびバッテリートレイを取り外す。

純正バッテリーブラケットを取り外す。

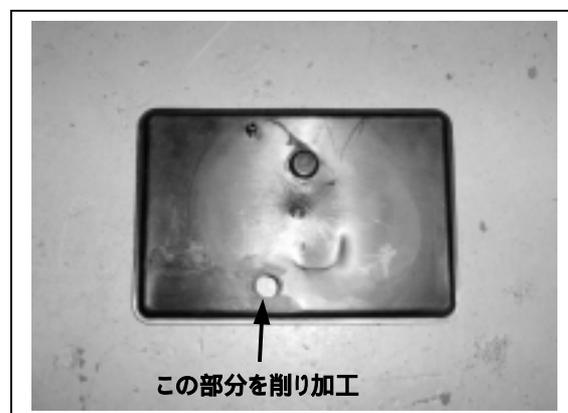


図の位置に、16. バッテリートレイステーを仮止めする。

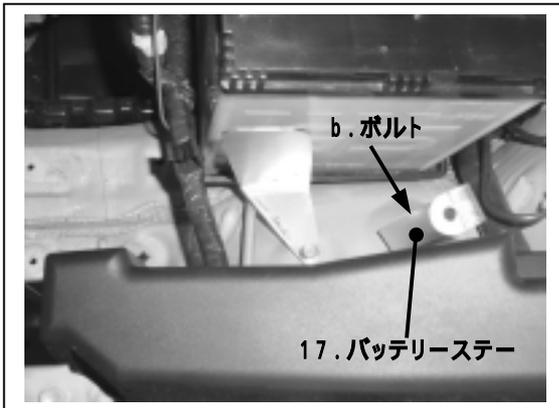


b. フランジボルト M6 × 16 (2ヶ)、1. フランジナット M6 (1ヶ)を使用して、15. バッテリートレイを取り付ける。

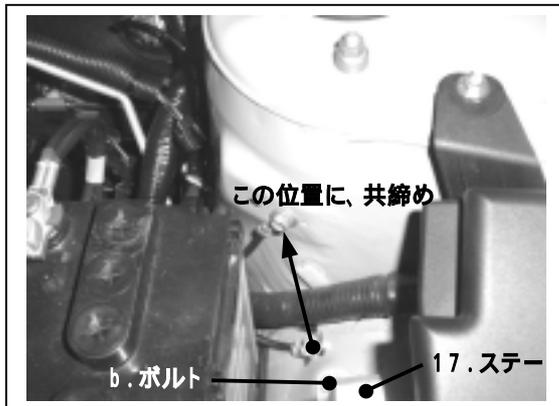
位置が決まったら、で仮止めだったボルトを、本締めして下さい。



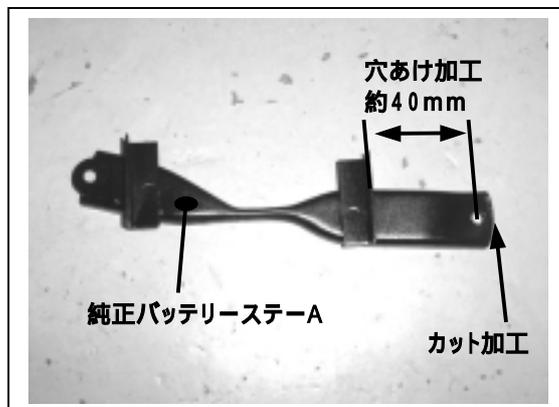
純正バッテリートレイの、図の位置を削り取る。



ボディアースを留めているボルトを外し、その位置に、b. フランジボルト M6 × 16 (1ヶ) を使用して、17. バッテリーステーを、図の位置に取り付ける。

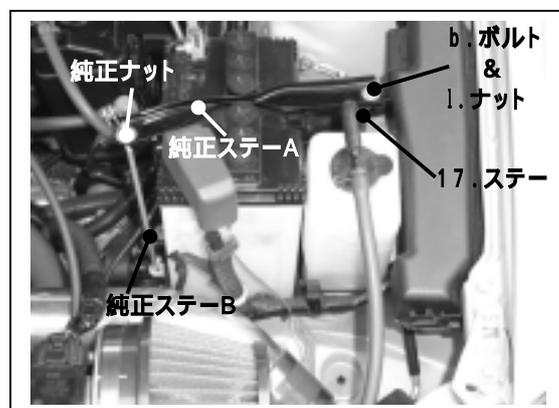


で外したボディアースを、図の位置に共締めする。



純正バッテリーステー-A を、図のように、カットおよび穴あけ加工する。

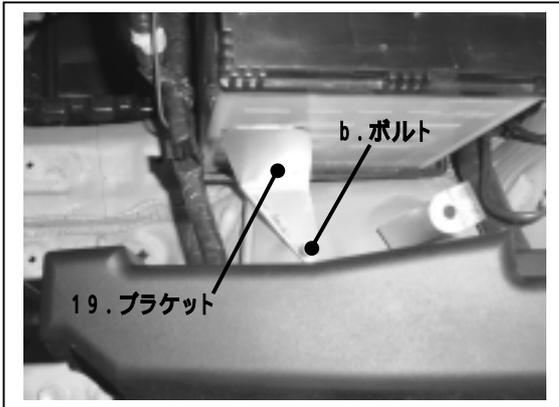
穴位置は、17. バッテリーステー、バッテリー、との取り付け具合を見ながら、調節して下さい。加工後は、防錆処理をして下さい。



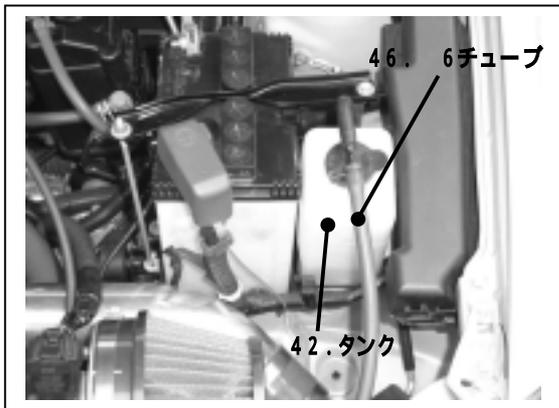
で加工した純正バッテリーステー-A、純正バッテリーステー-B、純正ナット (1ヶ)、b. フランジボルト M6 × 16 (1ヶ)、l. フランジナット M6 (1ヶ) を使用して、バッテリーを取り付ける。

バッテリーのプラス端子を、元通り取り付け。

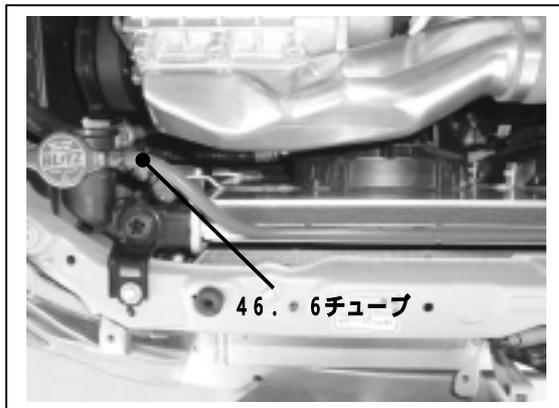
配線が届かない場合は、配線を固定してあるクランプ等を外して、余裕を持たせて下さい。



(24) 42.リザーバータンク取り付け  
 b.フランジボルト M6 × 16を使用して、19.リザーバータンクブラケットを、図の位置に取り付ける。



42.リザーバータンクの溝に、19.リザーバータンクブラケットをはめ込んで、取り付ける。



46. 6チューブと52.クランプ S(2ヶ)を使用して、ラジエターと42.リザーバータンクをつなぐ。

46. 6チューブは、プーリー等の可動部や高熱部に接触しないように、65.タイラップを使用して固定して下さい。

(25) **38**. インタークーラー本体取り付け

各インテークパイプには、インテーク No.と方向(コンプレッサー スロットルボディ)が記されたステッカーが、貼ってあります。

各インテークパイプが、ボディ等に干渉しないように、取り付けて下さい。

ホコリや異物が混入しないように、注意して下さい。

純正レインホースを取り外す。

純正レインホースの、下側取り付けステーを、図3・4のようにカット加工する。

加工する際は、保護メガネ・マスク・軍手等を着用して、安全に作業して下さい。

加工後は、防錆処理をして下さい。

**43**. レインホースカラー(4ヶ)、純正ナットを使用して、純正レインホースを取り付ける。

**43**. レインホースカラーを、取り付け面とレインホースの間に挟んで、レインホースをオフセットさせます。

**38**. インタークーラー本体に接触しないように、図1のように、ボンネットフードステーをカット加工する。

加工する際は、保護メガネ・マスク・軍手等を着用して、安全に作業して下さい。

加工後は、防錆処理をして下さい。

図1

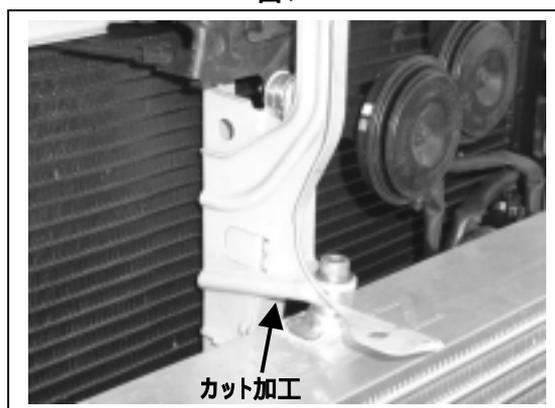
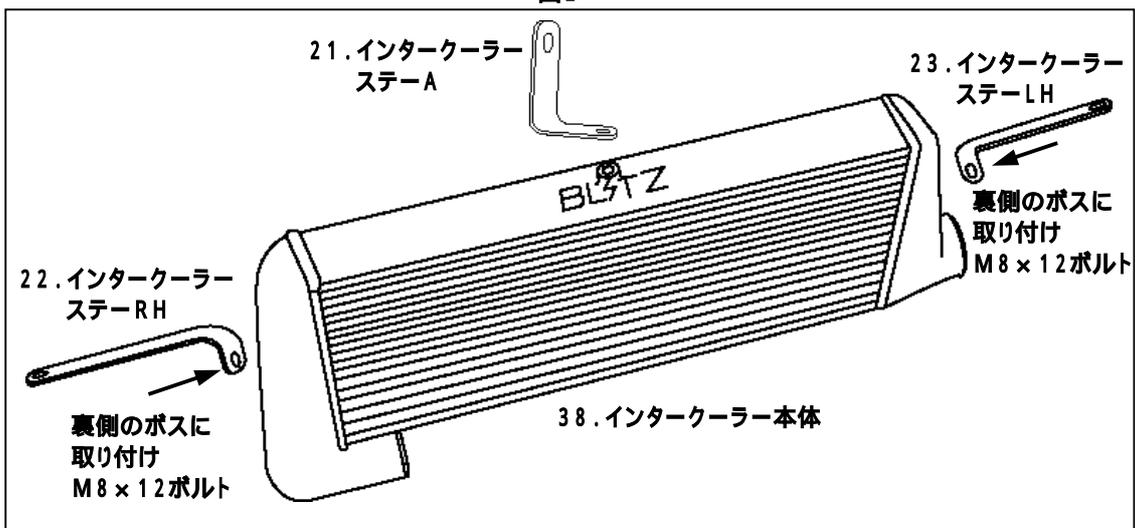


図2



21. インタークーラーステーA、22. インタークーラーステーRH、23. インタークーラーステーLH、b. フランジボルトM6×16(1ヶ)、d. フランジボルトM8×12(3ヶ)、純正レインホースボルト(2ヶ)を使用して、38. インタークーラー本体を取り付ける。  
38. インタークーラー本体が水平になるように調節し、ボディ等に干渉しないように、取り付けて下さい。

図3

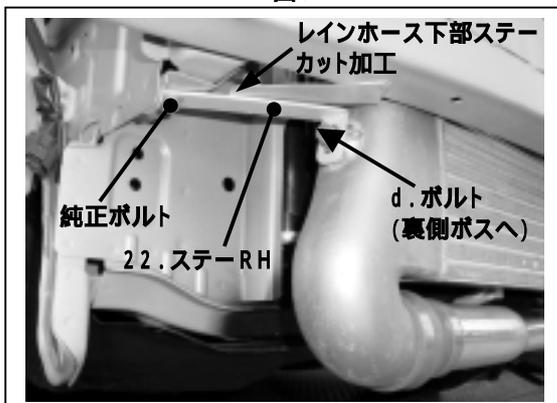


図4

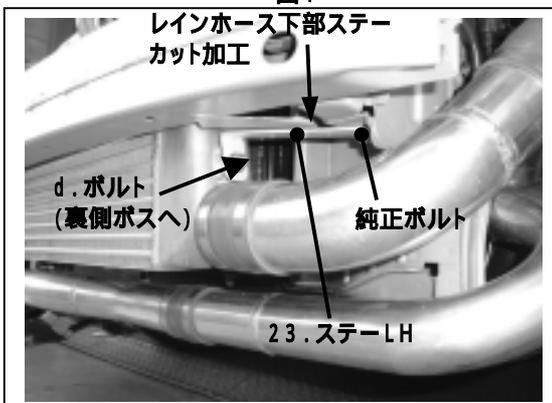


図5

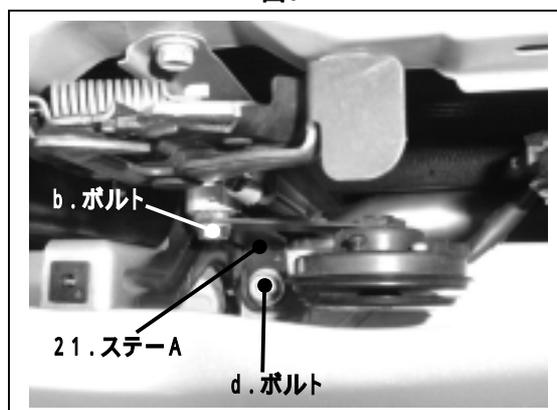
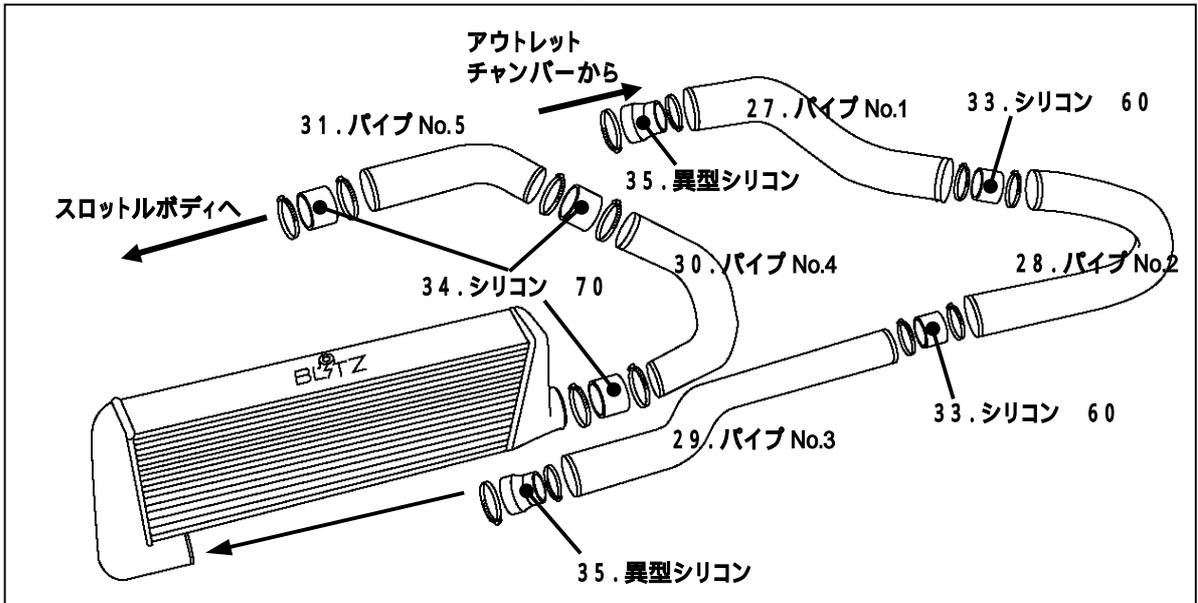


図6



27. インテークパイプ No.1、28. インテークパイプ No.2、29. インテークパイプ No.3、30. インテークパイプ No.4、31. インテークパイプ No.5、33. シリコンホース 60(2ヶ)、34. シリコンホース 70(3ヶ)、35. 異型シリコン 60 - 70(2ヶ)、36. ホースバンドL(8ヶ)、37. ホースバンドS(6ヶ)を使用して取り付け。

シリコンホースの 70の箇所に36. ホースバンドLを、 60の箇所に37. ホースバンドSを使用します。

28. インテークパイプ No.2のステーを、b. フランジボルトM6 × 16(1ヶ)、l. フランジナットM6(1ヶ)を使用して、図7の位置に固定する。

図7は、実物とは、若干異なります。(ブローオフバルブは、本キットに付属していません。)

図7

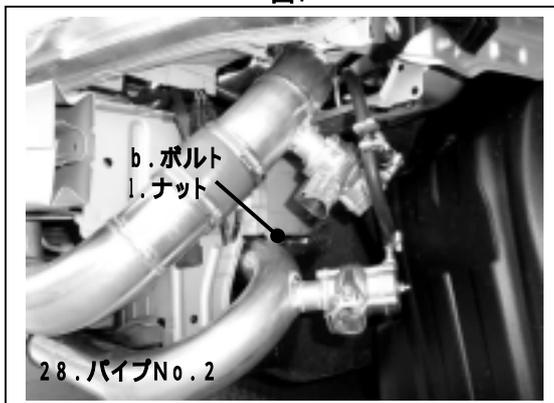


図8

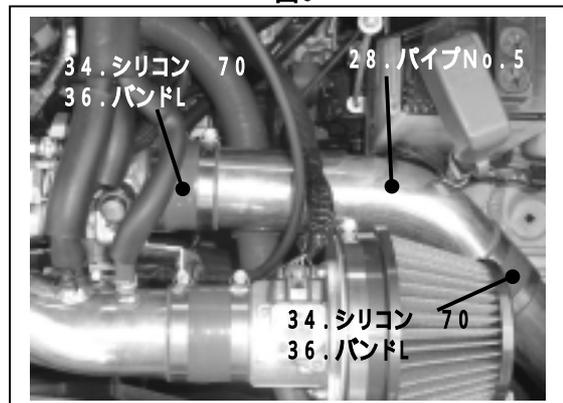
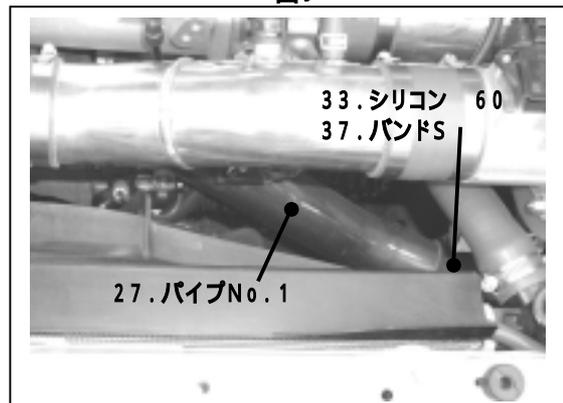


図9



(26) フロントバンパーおよびフロントグリル取り付け

加工時は、保護メガネ・マスク・軍手等を着用して、安全に作業して下さい。

フロントバンパーが、38. インタークーラー本体や各インテークパイプに干渉しないように、フロントバンパーカバーの干渉する部分をカット加工する。

フロントバンパー、ランプ類のコネクターを元通り取り付ける。

フォグランプは、取り付けできません。

フォグランプ無し車は、各インテークパイプに干渉しないように、フロントバンパーホールカバーを削り加工して下さい。

レインホースの角がフロントバンパー裏側に接触する場合は、レインホースの接触する部分を、削り加工して下さい。

エンジンアンダーカバー類を元通り取り付ける。

フロントフェンダーライナーの一部を、インテークパイプが通るようにカット加工して下さい。

フロントグリルを、元通り取り付ける。

(2.7) 63 . SUS パワーLM 取り付け

63 . SUS パワーLM キット内の取扱説明書も参考にして下さい。

63 . SUS パワーLM キット内の、アダプターとエアフロアダプターを、キット付属の M6 × 20 ボルト (4 ケ)、M6 × 15 ボルト (1 ケ)、M6 ナット (5 ケ) を使用して組み立てる。

63 . LM キット付属ステーは取り付けせずに、M6 × 15 ボルト (1 ケ)、M6 ナット (1 ケ) で、穴を塞ぐように取り付けて下さい。

63 . LM キット付属の M4 ボルト (2 ケ)、スペーサー (2 ケ) を使用して、純正エアフロセンサーをエアフロアダプターに取り付ける。

エアフロセンサーの向きに注意して下さい。

で組み立てたアダプターを、32 . サクションパイプ、34 . シリコンホース 70 (2 ケ)、36 . ホースバンド L (4 ケ) を使用して、1 . コンプレッサー本体インレット側の 3 . チャンバーに仮付けする。

24 . エアクリーナーステーを図の位置に共締めし、b . フランジボルト M6 × 16 (1 ケ) を使用して、ボディに固定する。

で仮付けだった 36 . ホースバンド L を本締めする。

63 . LM キット内のクリーナー本体を、付属のバンドで取り付ける。

45 . エアフロ延長ハーネス (5 ケ)、61 . メスギボシ・スリーブセット (5 セット)、62 . オスギボシ・スリーブセット (5 ケ) を使用して、エアフロセンサーの配線を延長する。

ギボシを取り付ける際は、配線の破断・接触不良・取り付け不良に十分注意して、慎重に作業して下さい。

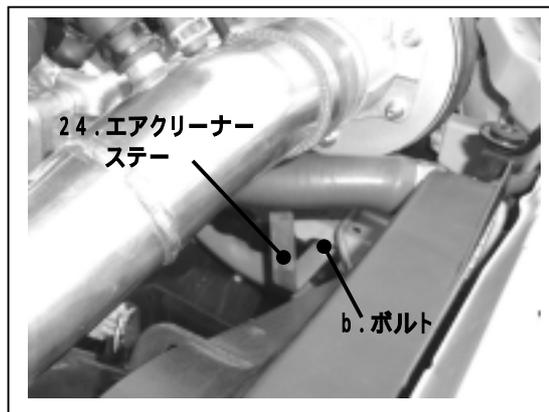
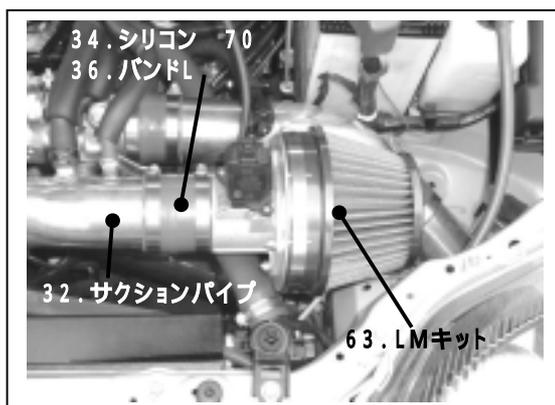
センサー破損・エンジン不調の原因となりますので、延長した配線や接続部分は、ビニールテープ等で、確実に被覆して下さい。

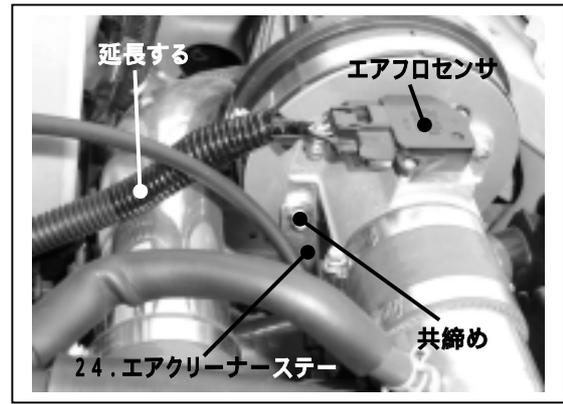
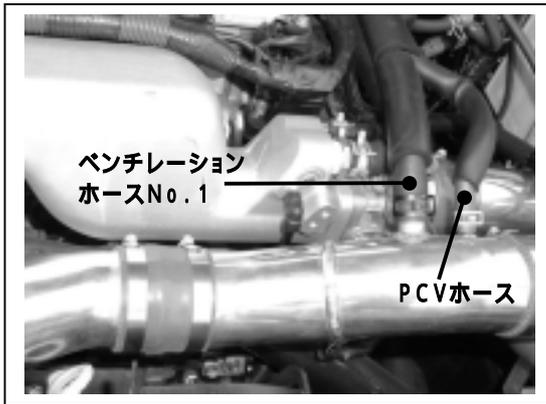
配線の接続間違いに、十分注意して下さい。

で延長した配線を、49 . 15 コルゲートチューブを使用して、カバーして下さい。

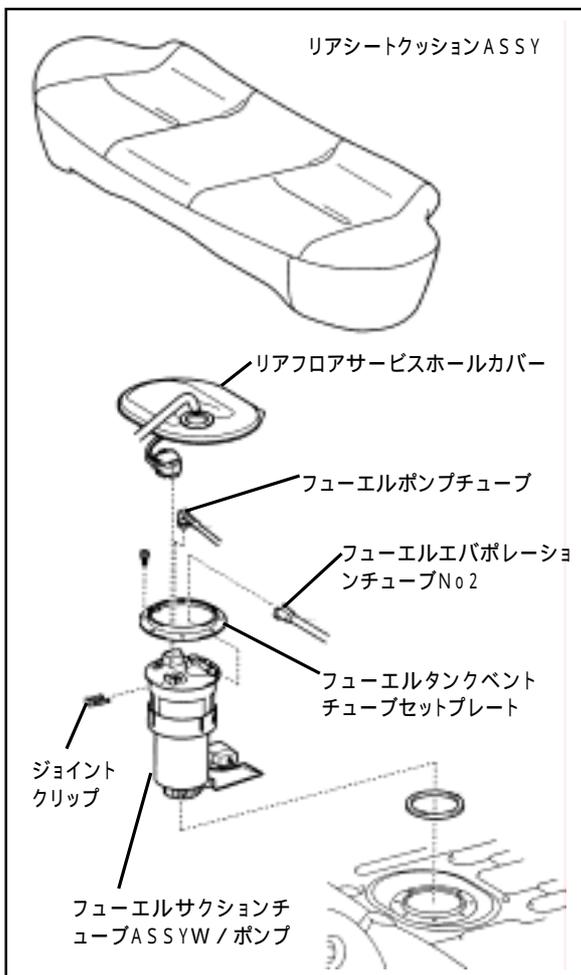
エアフロセンサーコネクターを取り付ける。

ベンチレーションホース No.1 を 32 . サクションパイプの 19 パイプ部に、PCV ホースを 9 パイプ部に、それぞれ純正クランプを使用して取り付ける。





(28) 66.レギュレーター交換作業

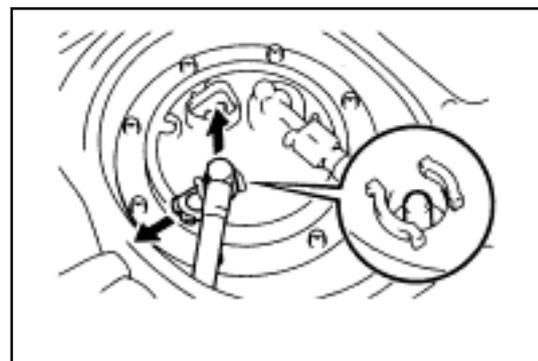


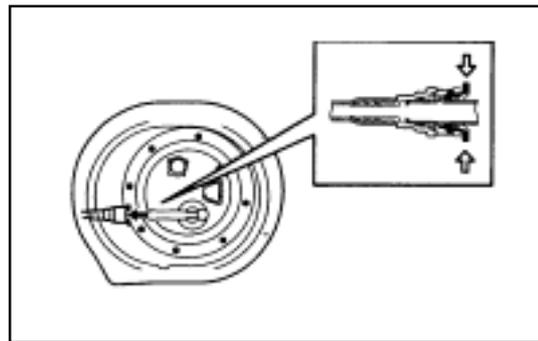
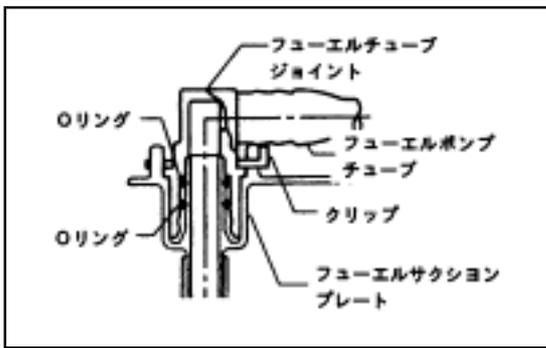
フューエルポンプチューブ切り離し

- (a) 作業前にクリップ部に付着した泥などの異物を清掃する。
- (b) ジョイントクリップをはずし、上方に引き上げる。

注意・ クイックコネクタは O リングによりナイロンチューブサクシオンプレートのプラグ部をシールしているため、接続部の傷つき異物の付着に対し、十分注意して作業をおこなう。

- ・ 脱着作業は必ず手で行い、工具などを使用しない。
- ・ ナイロンチューブを無理に曲げたり折ったり回転させたりしない。
- ・ プラグ部に異物などを付着させない。
- ・ 切り離した後、接続部をビニール袋で保護する。





フューエルエバポレーションチューブ No2 切り離し

- (a) 作業前にクリップ部に付着した泥などの異物を清掃する。
- (b) フューエルチューブコネクタクリップ先端を指でつまんでコネクタを引き抜いて切り離す。

注意・ フューエルチューブジョイントは O リングによりフューエルポンプチューブとフューエルサクシオンプレートをシールしているため、接続部の傷つき異物の付着に対し、十分注意して作業をおこなう。

- ・ 脱着作業は必ず手で行い、工具などを使用しない。
- ・ ナイロンチューブを無理に曲げたり折ったり回転させたりしない。
- ・ プラグ部に異物などを付着させない。
- ・ 切り離した後、接続部をビニール袋で保護する。
- ・ コネクタが固着している場合は、押したり引いたりして固着を解除する。

フューエルタンクベントチューブセットプレートを取り外す。

フューエルサクシオンチューブ ASSY W / ポンプを取り外す。

カバーを取り外す。

- (a) マイナスドライバーを使用して、ロックをはずしカバーを取り外す。

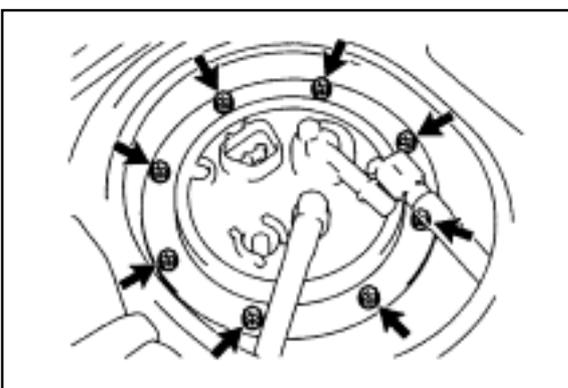
フューエルプレッシャーレギュレーターを取り外す。



加工部分



66.レギュレーター



図で指示している部分を、棒ヤスリなどを使用して図のように加工する。

加工した部分に26.レギュレーターの突起部分を合わせ、図のように取り付ける。

注意・加工した部分でOリングを傷つけないよう十分注意して作業してください。

・加工後はフューエルサクシオンチューブ ASSY W/ポンプを十分洗浄し、加工粉などを完全に取り除いてください。

・加工粉などがフューエルサクシオンチューブ ASSY W/ポンプ内に残っているとエンジン始動不良、エンジン不調等の原因になる場合があります。

カバーを取り付ける。

フューエルサクシオンチューブ ASSY W/ポンプを車輻に取り付ける

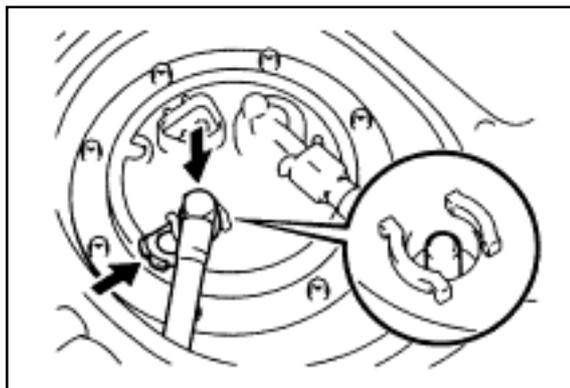
フューエルエバポレーションチューブ No2 を取り付ける。

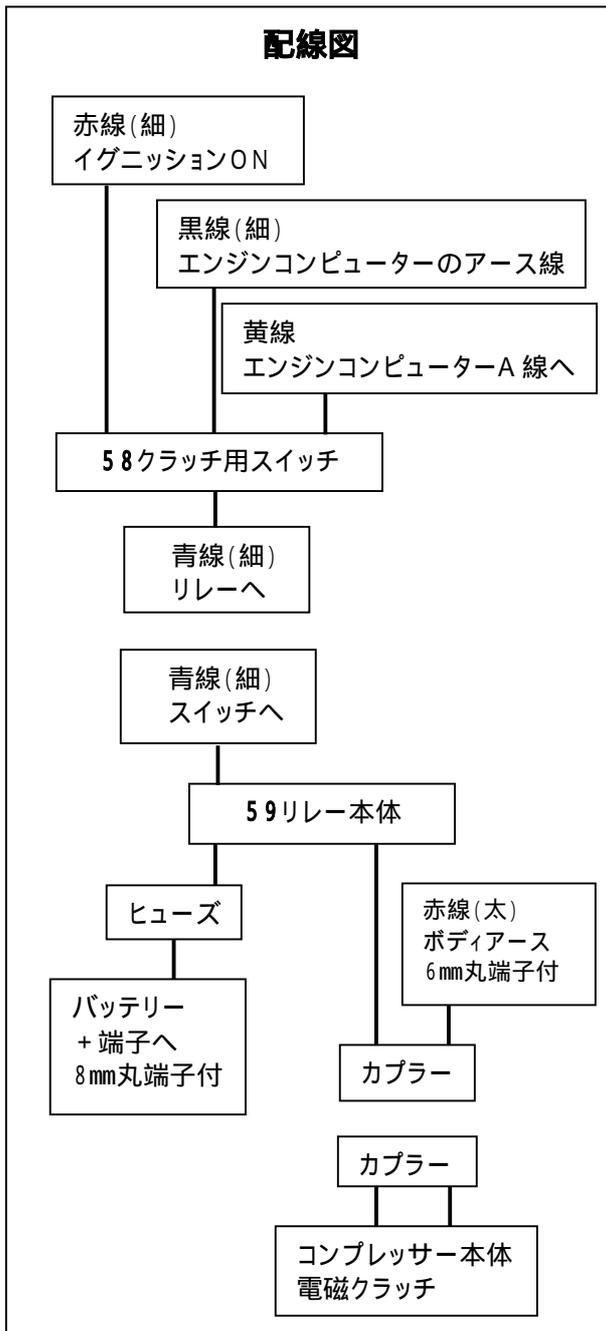
フューエルポンプチューブを取り付ける。ジョイントクリップはロックが掛かるまでしっかりとめ込んでください。

ジョイントクリップが外れると、燃料漏れを起こす恐れがあります。

リアフロアサービスホールカバーを取り付ける。

リアシートを元に戻す。





(29) 58. クラッチ用スイッチ取り付け

59. リレーハーネスのカプラーを、コンプレッサー本体から出ているハーネスカプラーに接続する。

b. フランジボルト M6 × 16 (1ヶ) を使用して、59. リレーハーネスのリレー本体を、適当な位置に固定する。

プーリー・V ベルト等の可動部や高熱部に干渉しない位置に固定して下さい。

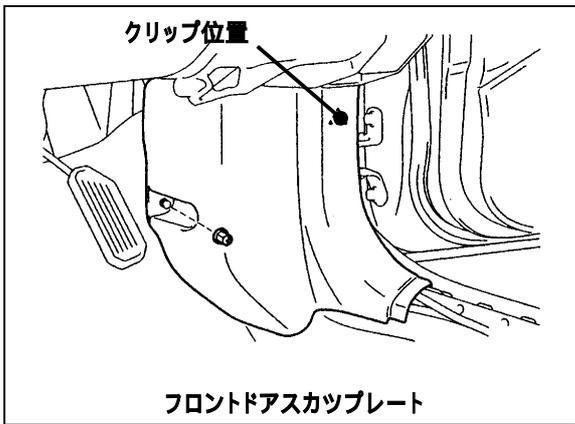
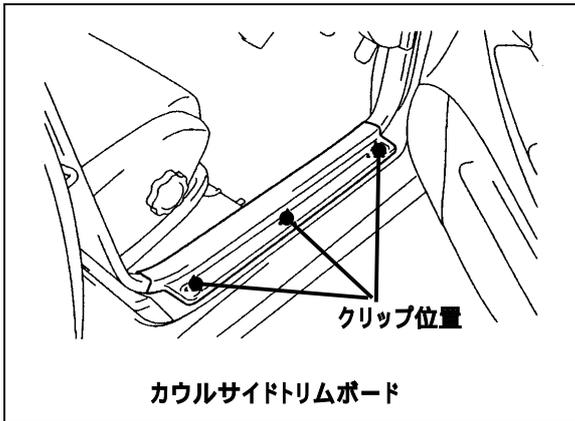
59. リレーハーネスのカプラーから出ている赤線 (6mm 丸端子) を、ボディアース位置に共締めする。

59. リレー本体から出ている赤線 (8mm 丸端子) を、バッテリープラス端子に接続する。

バッテリーに接続する線と、ボディアースする線を、間違えないように注意して下さい。

59. リレー本体から出ている青線を、助手席側の室内に引き込む。

ハーネス・ホース類を、プーリー・V ベルト等の可動部や高熱部に干渉しないように、65. タイラップで固定して下さい。



手席側のフロントドアスカッププレートおよびカウルサイドトリムボードを取り外す。

図は、運転席側です。

8. クラッチ用スイッチの黄線を、図のエンジンコンピューターA線に接続する。

58. クラッチ用スイッチの黒線(細)を、図のエンジンコンピューターのアース線に接続する。

58. クラッチ用スイッチの赤線(細)を、イグニッションON電源に接続する。

配線は付属のエレクトロタップもしくはハンダ付け接続してください。

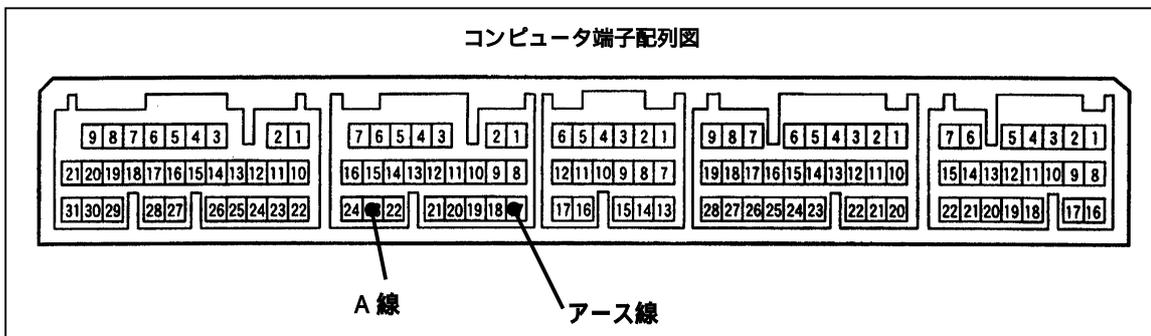
エレクトロタップで接続する際に、配線の断線等ないように、十分注意して下さい。

58. クラッチ用スイッチの青線を、で室内に引き込んだ59. リレーハーネスの青線と接続する。

58. クラッチ用スイッチを、カウルサイドトリムボードの内側に、65. タイラップを使用して固定する。

フロントドアスカッププレートおよびカウルサイドトリムボードを元通り取り付ける。

グラブコンパートメントドア ASSY を、元通り取り付ける。



- (30) シリンダーヘッドカバーシール取り付け  
純正シリンダーヘッドカバーシールを2. インテークマニホールドと干渉しないように、カット加工する。  
加工時は、保護メガネ・マスク・軍手等を着用して、安全に作業して下さい。  
加工した純正シリンダーヘッドカバーを、純正ボルトを使用して取り付ける。
- (31) バッテリーマイナス端子を取り付ける。
- (32) イグニッションキーをONにして、アクセルペダルを踏み込みコンプレッサープーリーのクラッチが「カチッ」と入ることを確認する。  
入らない場合は、58. クラッチ用スイッチおよび59. リレーハーネスの配線等が、確実に配線できているか確認して下さい。
- (33) エンジンオイルを注入する。
- (34) 冷却水を注入する。

**以上で、本キットの取り付けは終了です。**

## (6) 取り付け後の確認

### エンジン始動前の確認

- ・ パイプ、ホース等配管及び配線に間違いがないか確認してください。
- ・ ボルト、ナット類の締め忘れがないか確認してください。
- ・ ガソリンはハイオクガソリンが入っているか確認してください。

### エンジン始動後の確認

- ・ コンプレッサーから異音等がないか確認してください。
- ・ 軽く空ぶかしをおこない、Vベルト、コンプレッサー等に異常がないか確認してください。(ベルトのスリップ、歯とび)
- ・ 冷却水、燃料、オイル等の漏れがないか確認してください。

## (7) メンテナンス

快適に運転していただく為、お車を運転する前には必ず日常点検を行ってください。  
尚、本キットを取り付けた後に維持、管理する項目については必ず実施してください。

### コンプレッサーキット装着時の維持、管理項目

- ・ エンジンオイルの定期的な交換(推奨 5000Km以内で交換)
- ・ エンジンオイルフィルターの定期的な交換(推奨 10000Km以内で交換)
- ・ ハイオクガソリンの使用(レギュラーガソリンは絶対に使用しないでください)  
キットには専用ハイオクステッカーを付属しています。給油口内側に貼り付ける事をお勧めします。

### Vベルトのメンテナンスについて

本コンプレッサーキットでは、Vベルトを利用しコンプレッサーを回転させ、過給を発生させています。定期的にVベルトの点検を行ってください。

- ・ Vベルトの点検 推奨10000kmで点検
- ・ Vベルトの交換 Vベルトの交換サイクルは車両の状態・運転の状況により異なります。Vベルトにヒビ、亀裂、歯とび等の劣化が確認された場合には交換をお勧めします。

## (8) 推奨パーツ

- ・ プラグ BLITZ Iridium Spec 77 T7340B - 6 コードNo.14436
- ・ プラグ BLITZ Iridium Spec 77 T7340B - 7 コードNo.14437
- ・ BLITZ AERO SPEED for COROLLA ZZE12# フロントハーフスポイラー  
コードNo.60070
- ・ BCS RUNX・ALLEX・FIELDER 2ZZ-GE 6MT車 Vベルト(6PK2523)  
コードNo.10126-017

### 製品についてのご相談先

製品についてのお問い合わせは、お電話またはFAXにて下記宛てにお願いします。

連絡先 (株)ブリッツ TEL 0566-79-2200  
住所 愛知県安城市高棚町大道40-1 FAX 0566-79-2070

製造・発売元	株式会社 ブリッツ
取扱説明書番号	10132004
初版作製年月日	2002.6.1





**BLATZ**